

# 東京音楽大学リポジトリ

## Tokyo College of Music Repository

バッハ・平均率の演奏解釈の多様性：  
シリーズ・その1

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 1995-12-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小林, 出, 山口, 優 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://tokyo-ondai.repo.nii.ac.jp/records/750">https://tokyo-ondai.repo.nii.ac.jp/records/750</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



# バッハ・平均率の演奏解釈の多様性

～シリーズ・その1～

小林 出・山口 優

〈はじめに〉

バッハの平均率クラヴィーア曲集「Das Wohltemperierte Klavier」はバッハの鍵盤楽器教育の最終段階の教材とも言われているが、芸術作品としての価値も極めて高く評価されており、現在も著名な演奏家の演奏曲目として、又往年のピアニストの演奏もレコーディングされCDとして残っており数々の演奏を耳にすることが出来る。それらの演奏は多種多様で、比較すれば正反対とも思える解釈に遭遇する。テンポや強弱のような単純な要素一つをとっても、あるピアニストは16分音符連続の曲で♩=150で、fの音量で弾いているのだが、同じ曲を♩=63で、ほとんどpの音量で弾いているピアニストもいる。これは極端な例だが、もっと微妙で繊細なニュアンスやアーティキュレーション、アゴーギクなどの違いによっても、全く違った、新鮮な印象や意図しているものを感じ取ることが出来る。然れども、どの演奏も「バッハ」なのである。その演奏の善し悪し、或いは好き嫌いは兎も角として何故これ程までに多種多様な演奏が可能なのであろうか。

又、数ある楽譜の校訂部分を見てもテンポ、ダイナミクス、アーティキュレーション、発想標語等に演奏解釈の多様性があるのに驚かされる。一方では共通性や、ある方向性も汲み取れるのだが、初めて見た時に、それまでに知っている楽譜との違いに極めて興味をそそられるのである。この楽譜は正しいとか、間違った解釈だとかの是非を問う前に、そこに書かれてあるテンポ、アーティキュレーション、強弱等でどういった音楽を作ることが可能か、どんなスタイルの演奏になり得るのか、というようなことをまず頭と心の中でシュミレーションしてみることが肝要と考える。

本稿で、筆者はまず手初めに平均率I巻(全24曲)より数曲取り出し、筆者の見方によるその曲の演奏解釈上重要なポイントを列挙し、数ある楽譜(校訂版、或いは原典版の校訂部分)を参照し、実際の演奏である著名な演奏家のCDを聴き、手掛かりとしたい。それによりバッハの平均率の演奏表現における柔軟性、多様性に触れて行きたい。勿論、多様性と同時に普遍的な要素も自ずと垣間見えて来ることであろう。そして本稿では筆者の考え方もさることなが

ら、読者にバッハの平均率クラヴィーア曲集に対して、新たな側面からの新鮮な可能性、多種多様な演奏解釈の自由な広がりが見出される一つのヒントになり得る要素を見つけて載ければ幸いです。

尚、CDによる演奏家のテンポ、アーティキュレーション、アゴーギク、ダイナミクス、ニュアンス等を聴き記したが、これは聴く人によっても多少印象が変わってくると思われるので、一つの目安として捉えて載きたい。

又、文末に校訂版・原典版の校訂部分による平均率I巻（全24曲）のテンポ表示と速度標語の一覧表を作成し、掲載した。併せて参照されたい。

### 〈平均率I巻・第2番ハ短調 BWV847〉

#### プレリュード

バッハのプレリュードでは、しばしば無窮動的な16分音符の連続によるトッカータ風の曲が見られるが、この曲もその一例である。又、分散和音として捉え和声進行の美しさを醸し出すことも重要であろう。そしてこの曲は、バッハ自身によるテンポ表示が記されている数少ない曲（I巻ではc-moll, e-moll, h-mollのみ）の一つであるので、その部分の解釈にも注目したい（28小節目 presto, 34小節目 adagio, 35小節目 allegro）。

#### 演奏解釈上重要と思われるポイント

- テンポ（冒頭）
- 音色（レガート、ノンレガート、スタッカート奏法）
- アクセントの付け方（拍のとり方）
- 21小節より終りまで

21小節より左手の強拍部の属音（ドミナント）の持続低音の緊張感、28小節目の presto の部分へ向かっていく表現方法、及び25～27小節の小さなカデンツァ風の1声部部分。34小節目、adagio の叙唱風の部分から終りまでの弾き方。

#### [譜例1・原典版 冒頭部分]



[譜例 2 ・ 原典版 21小節より終りまで]

21

25

presto

28

adagio

34

allegro

35

ではまず、各校訂版の冒頭の部分を見てみよう。

1) テンポ表示

♩=84 (ケラー) ~ ♩=144 (カセルラ, チェルニー)

2) 速度表示

Moderato (トーヴィ, 神澤哲郎)

Allegro moderato (パーマー)

Allegro (ビショッフ, 井口基成, ポリーフカ, レントゲン, ムジェリーニ)

Allegro con fuoco (ブゾーニ)

Allegro impetuoso (カセルラ, バルトーク) impetuoso → 熱烈に, 性急に。

Allegro vivace (チェルニー)

3) 発想標語

energico (ビショッフ, ムジェリーニ, パーマー)

distintamente (ブゾーニ) distintamente → 明確に。

articolato (ブゾーニ, カセルラ, ムジェリーニ) articolato → 一つ一つ明瞭に。

quasi non legato (パーマー)

4) 強弱記号

f (チェルニー, ブゾーニ, 井口基成, ポリーフカ, カセルラ, レントゲン, ムジェリーニ, バルトーク, パーマー)

mp (神澤哲郎)

次に前記のポイントを実際の演奏 (CD) より聴いてみよう。

エドウィン・フィッシャー (Pf)

- Tempo : ♩=140± かなり速めのテンポ。次のギーゼキングとほぼ同じテンポだが、タッチの違いでフィッシャーの方が速く感じられる (ノンレガートタッチ)。
- 音色 : ノンレガートで颯爽として生き生きとしている。
- アクセント : 4分音符1拍単位で、強, 中, 強, 中と付けている。
- 21小節~28小節 (presto) : エネルギッシュに molto cresc.。迫力を持って presto の小節の左手のG音 (ドミナント, 1オクターブ低音追加) に入る (譜例)。

- adagio (叙唱) 部分：力強いフォルテの音色でけれん味の無い歌い方。
- 終止部分：めずらしく、3拍目の2点ハ音より最終音（ナポリの3度）のホ音に向かって豪快な cresc. をしてフォルテで終わっている。

### ワルター・ギーゼキング(Pf)

- Tempo : ♩ = 140 ± かなり速めのテンポ。
- 音色：各音がはっきりしているがレガート奏法。健康的で、男性的なニュアンス。
- アクセント：強, 小, 強, 小 (小→中より少なめ)。
- 21小節～28小節 (presto)：心持ちアツチェレランドシアルペジオで大きな山を作り, presto の小節の左手のG音 (ドミナント, 1オクターブ低音追加しフォルテ イッシモ) に入る。
- adagio (叙唱) 部分：フォルテで男性的 (即物的な印象)。
- allegro 部分は, 2小節めにオクターブのC音を追加 (グレン・グールドと同じ) (譜例)。

### スピャトスラフ・リヒテル(Pf)

- Tempo : ♩ = 132 特に安定したテンポ。
- 音色：レガート奏法。整然としたタッチで力強さも感じさせる。
- アクセント：2拍毎にはっきりとしたアクセント。
- 21小節～28小節 (presto)：緊張の持続を感じさせる。
- presto 部分：テンポも音量もそれまでより一段と差をつけ, 勇ましく弾いている。
- adagio (叙唱) 部分：テンポ通りだが哀愁を感じさせる。
- allegro 部分は adagio の余韻を感じさせながらピアノで終わる。

### イヨルク・デムス(Pf)

- Tempo : ♩ = 120 ±

- 音 色：レガート奏法。
- アクセント：2拍毎。1拍目（長く）と3拍目（少し長く）にチェンバロの奏法にしばしば見られる（例えばレオンハルトの演奏）ような特徴的なアゴーギクを付けている。5～8小節目の強弱（f, p, f, p）は〈春秋社〉〈バルトーク〉〈チェルニー〉等と同じである。
- 21小節～28小節（presto）：presto に向かって cresc. + accel. し、なだれこむように presto の小節の左手のG音（ドミナント，1オクターブ低音追加）に入る。
- adagio（叙唱）部分：フォルテでチェンバロ的なアゴーギクをつけている。
- allegro 部分もそのままたっぷりとした音，最後の2拍で dim. し，ピアノで終わる。

### グレン・グールド(Pf)

- Tempo : ♩=80 遅めだが，強いスタッカートタッチのため躍動的に感じられる。
- 音 色：ほとんどスタッカート（フォルテで歯切れのよいスタッカートで始まる）。きっぱりとしてどの音も極めて明快。その中に微妙なニュアンスが印象づけられる。
- アクセント：2拍毎。アクセントに当たる音を他の音より長めに延ばしている。春秋社等に見られる5～8小節目の強弱（f, p ; f, p）の所で，fの部分を非常に長く，pの部分を短くすることにより同じような効果を生み出している（譜例）。

The image displays three systems of musical notation for piano. The first system is a single line of music. The second system is a grand staff (treble and bass clefs) with a box labeled '3' in the left hand. The third system is also a grand staff with a box labeled '6' in the left hand and vertical arrows pointing to specific notes in both hands, likely indicating accents or dynamic markings.

- 21小節～28小節（presto）：17, 18小節のバス As 音，A 音を強調する事によりハーモニーをより感じさせ，持続低音のG音に入る。25小節より最後まで大きなアゴー

ギクにより豊かで絶妙な音楽表現を見せる。

- allegro : ギーゼキングと同じ様にC音を付け加えている (ギーゼキングの欄を参照)。

#### フリードリヒ・グルダ(Pf)

- Tempo : ♩=63 今回聞いた中で最も遅い。
- 音色 : レガート。27小節目迄弱音表現。残念ながら意図はわからず。敢えて言えばクラヴィコードを意識してか？
- アクセント : 2拍毎。アクセントの音を残す。
- presto 部分から最後まで : それまでの弱音表現とは打って変わって、テンポと音量が変わりそのままの音量で最後まで通す (出だしと presto 部分のテンポの差が最も大きい)。presto 部分は突然フォルテで ♩=136のテンポになる。2拍目と4拍目にアクセントが付き弱拍を強調し、奇異に感じられた。
- presto 部分, adagio (叙唱) 部分, allegro 部分も何故か全く同じ音質に感じられた。

#### アンドラーシュ・シフ(Pf)

- Tempo : ♩=92 落ち着いた少し遅めの Tempo。
- 音色 : ノンレガートタッチでペダル使用。前述のグールドと傾向は似ているがソフトな表現。
- アクセント : 2拍毎。チェンバロ的なアゴーギクを感じさせ、テヌートやスタッカートを織り交ぜて表現のヴァリエーションをつけている。
- 21小節~28小節 (presto) : 14小節目ぐらいからスタッカートと細かいアーティキュレーション, 下声を浮き立たせたり, バスを強調したりしながら, 少しずつ緊張感を盛り上げる。一旦21小節目でピアノに落とし, そこから cresc. が始まる。
- presto 部分 : 左手のG音, 1オクターブ低音追加。
- adagio (叙唱) 部分 : アルペジオや長めのトリルにチェンバロ的な弾き方を感じられる。ほぼメゾフォルテの音量でレシタティーヴォ風に表現。

#### エドワード・オールドウェル(Pf)

- Tempo : ♩=94± 拍としては殆ど ♩=47に聞こえる為, 非常にゆっくりしたテンポに感じられる。
- 音色 : 極めて叙情的な響き。凡そトッカータ的な雰囲気はない。
- アクセント : 2拍毎 (1拍目と3拍目に長めのペダル使用)。
- presto 部分からは, それまでの情感的な雰囲気を降り切る様に明快な音色に変え, それまでの鬱憤を晴らす様な勢いを表出する。
- adagio (叙唱) 部分 : 32分音符, 64分音符の区別にあまりとらわれない。

### ウラデミール・フェルツマン(Pf)

- Tempo : ♩ = 108 ± 独特のアゴーギクで非常に計測しにくい。
- 音色 : energico で grandioso な表現を目指しているように思えるが、ブゾーニ的か？ 今回聞いた中で唯一オルガン的と言えるのではないか。
- アクセント : 強, 小, 強, 小。
- 21小節~28小節 (presto) : presto の G 音をトリルにしている (譜例)。



### J. カルロス・マルティンス(Pf)

- Tempo : ♩ = 150 ± 今回聞いた中では最も速い。
- 音色 : 荒々しいトッカータ的, エチュード的な音色に感じられる。
- アクセント : 2 拍毎。
- adagio (叙唱) 部分 : それまでとは様相を一変して叙情的な雰囲気になり, Allegro から終わりまで極端な程 rit. をしピアニッシモで終わる。

## 〈平均率 I 巻・第 2 番ハ短調 BWV847〉

### フーガ

これは 3 声フーガであるが, 多くのピアノ教師がバッハの平均率の導入において初期の段階で学ばせる曲の一つと言えよう。しかし, 勿論芸術性において安易な曲でないということは言うまでもない。

#### 演奏解釈上重要と思われるポイント

- テンポ
- 冒頭の主旋律のアーティキュレーション
- 冒頭のリズムの音楽的表現

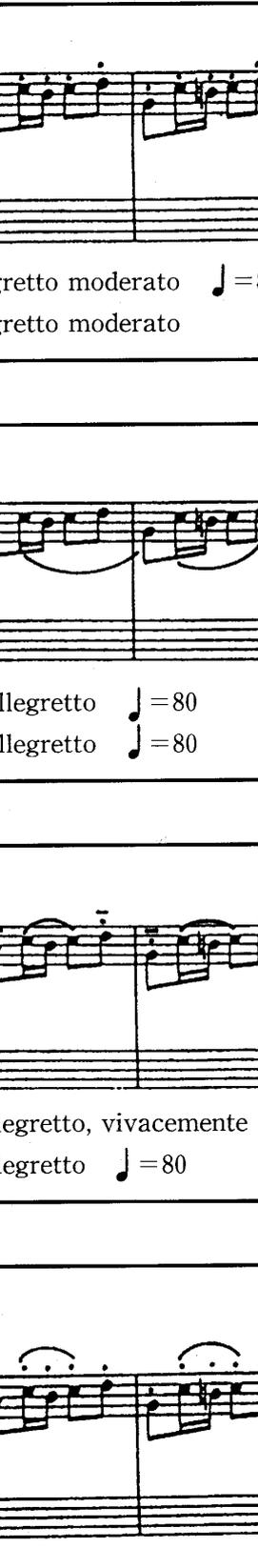
(例として行進曲風, 舞曲風, スケルツォ又はカプリツィオ風, 情緒的な表現等)

- 曲全体の音色, 音量などの移り変わり。
- 結尾部分

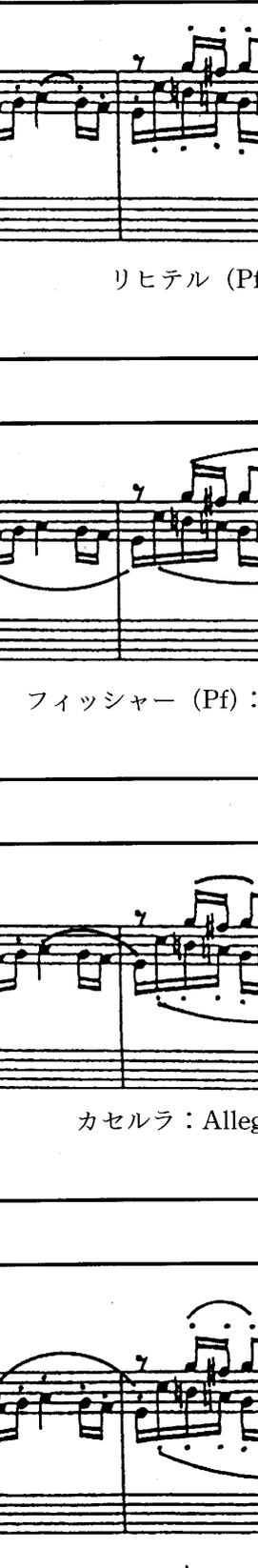
各校訂版及び演奏家の冒頭の主旋律のアーティキュレーション



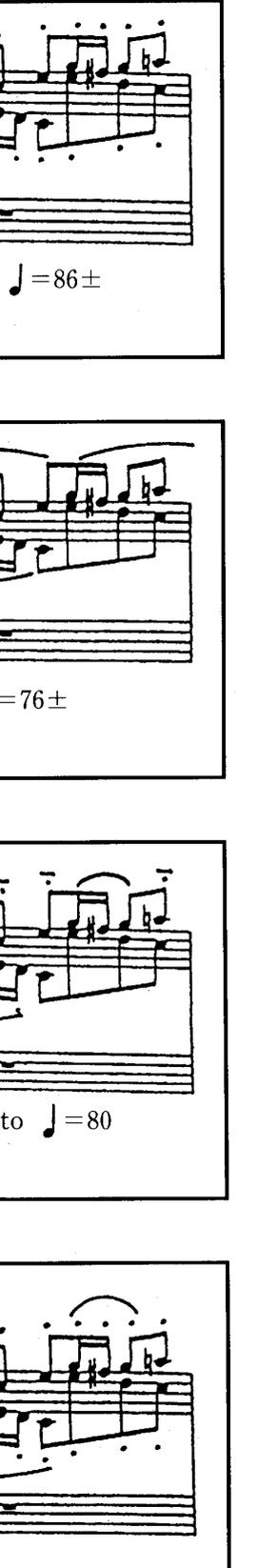
チェルニー：Allegretto moderato ♩=80      リヒテル (Pf)：♩=86±  
ポリーフカ：Allegretto moderato



ビショップ：Allegretto ♩=80      フィッシャー (Pf)：♩=76±  
シュターデ：Allegretto ♩=80



ブゾーニ：Allegretto, vivacamente      カセルラ：Allegretto ♩=80  
ムジェリーニ：Allegretto ♩=80



井口基成：Allegretto      デムス (Pf)：♩=80±

レントゲン：Allegretto ♩ = 88

神澤哲郎：♩ = 69

グールド (Pf)：♩ = 88±

バルトーク：Allegretto ♩ = 80~88  
ギーゼキング (Pf)：♩ = 88~96

シフ (Pf) : ♩ = 80 ±

パーマー : Allegro moderato ♩ = 80 ~ 100      レオンハルト (Cembalo) : ♩ = 69 ±  
 ジャコッテ (Cembalo) : ♩ = 88 ±

グルダ (Pf) : ♩ = 63 ±      マルティンス (Pf) : ♩ = 92 ± (モルデントはなし)  
 フェルツマン (Pf) : ♩ = 94 ± (モルデントはなし)

オールドウェル (Pf) : ♩ = 84 ±

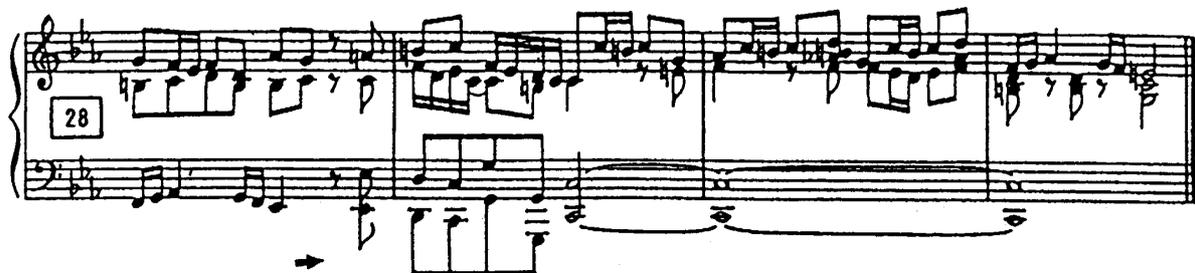
次に実際の演奏（CD）を聴いてみよう。

エドウィン・フィッシャー(Pf)

- Tempo : ♩ = 76±
- 冒頭のリズムの音楽的表現：しっとりとした懐古的な雰囲気を漂わせる（譜例）。



- 曲全体の移り変わり：しっとりとした出だしから、次第に心の昂まりを隠さずに感性の溢れ出るように展開されて行く。pp~ff迄、幅広いダイナミクス。最初に想像するイメージは次第に力強い表現に変わって行く。
- 結尾部分：28小節めのバス、オクターブ低音追加（譜例）し、最終音は充足されたffの音量で終わる。



ワルター・ギーゼキング(Pf)

- Tempo : ♩ = 88~96
- 冒頭のリズムの音楽的表現：8分音符の刻みを強調し、ある種の舞曲的リズム表現を思わせる。
- 曲全体の移り変わり：最後のクライマックスに向かって直進している様な感じ。
- 結尾部分：十分 allargando し最後はいくぶん静穏に終わる。

スビャトスラフ・リヒテル(Pf)

- Tempo : ♩ = 86±

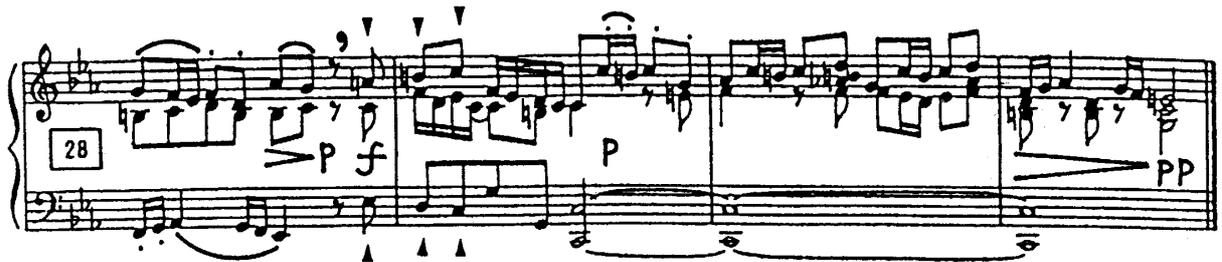
- 冒頭のリズムの音楽的表現：毅然としたリズムのスタッカートで行進曲風（譜例）。



- 曲全体の移り変わり：8分音符は全体を通してスタッカート。一貫したテンポで男性的な力強さを感じる。
- 結尾部分：テヌートのレガートで、最後の音は pp で終わる。

### イヨルク・デムス(Pf)

- Tempo : ♩ = 80 ±
- 冒頭のリズムの音楽的表現：クラヴィコードを思わせるような弱音を主体として、軽やかだが情緒的なスタッカートのニュアンスをつけている。
- 曲全体の移り変わり：時折聞こえる明快なスタッカートは生き生きとした表情を感じさせるが、あくまでも音量をセーブして最初の雰囲気壊さずに纏め上げている。
- 結尾部分：一瞬フォルテになるが、すぐにピアノに戻り、消えるように終止していく（譜例）。

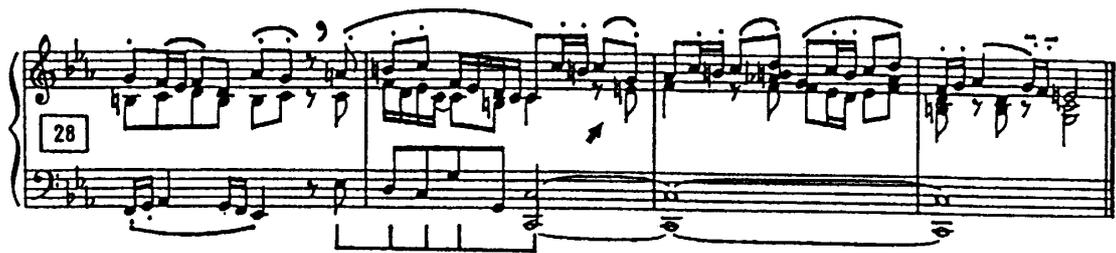
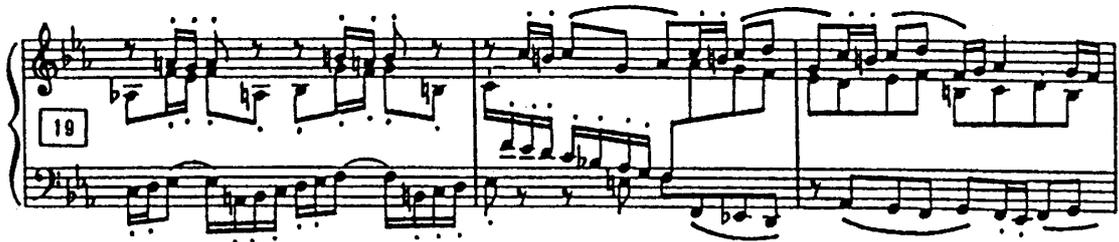


### グレン・グールド(Pf)

- Tempo : ♩ = 88 ± 活気のあるノンレガートタッチの為テンポが速く感じられる。
- 冒頭のリズムの音楽的表現：明快で整然としている。独特で個性的なアーティキュレーションだが、磨き抜かれた表現により全く違和感を感じさせない（譜例）。



- 曲全体の移り変わり：整然としたリズム感覚を持ち、全ての音を明確なタッチで演奏している。演奏表現はあまりダイナミクスに頼らず、多彩なアーティキュレーション、又そのヴァリエーションにより展開と終結を見せる（その一例）。



- 結尾部分：allargando し、決然としたフォルテで終わる。

#### フリードリヒ・グルダ(Pf)

- Tempo : ♩ = 63 ± 遅い。
- 冒頭のリズムの音楽的表現：音量をおさえぎみに弱音のスタッカートが主体。懐古趣味？  
古楽器的イメージ？
- 曲全体の移り変わり：全体に訥々とした表情で進む。音楽的な緊張感や、微妙なニュアンス

は殆ど感じられない。

- 結尾部分：コーダ部分に入ってフォルテ，最後のトニックに向かって大きな *cresc.* をもって終わる。

#### アンドラーシュ・シフ (Pf)

- Tempo : ♩ = 80 ±
- 冒頭のリズムの音楽的表現：軽やかで優美。微妙なアゴーギクを *leggiero* のタッチで表現。舞曲風なイメージを膨らませる。
- 曲全体の移り変わり：上品で落ち着いた表現。ペダルを1拍目と3拍目に使用する事が多く，それも舞曲的な雰囲気醸し出している（その一例）。

The image displays three systems of musical notation for a piano piece. Each system consists of a treble clef staff and a bass clef staff. The notation includes various rhythmic values, slurs, and dynamic markings. The first system shows a complex rhythmic pattern with many sixteenth and thirty-second notes. The second system continues this pattern with some changes in phrasing. The third system shows a more melodic line in the treble staff and a supporting bass line, with a 'b' marking indicating a flat in the bass staff.

- 結尾部分：allargando し，フォルテで終わる。

#### エドワード・オールドウェル (Pf)

- Tempo : ♩ = 84 ±
- 冒頭のリズムの音楽的表現：独特のアゴーギクで始まるテーマは，緩やかな舞曲のイメージと情緒を醸し出す。1拍目と3拍目が強調される事が多い（前述の譜例参照）。

- 曲全体の移り変わり：重厚で情熱的な音楽の運び。
- 結尾部分：終わり4小節はバス1オクターブ低音追加し堂々とした音量だが、最後は穏やかに収めている。

#### ウラデミール・フェルツマン(Pf)

- Tempo : ♩=94±
- 冒頭のリズムの音楽的表現：小気味良いスタッカートで軽やか、開放的。
- 曲全体の移り変わり：16分音符のスタッカートは歯切れよく、時折り舞曲のステップを思わせる様なリズムカルなアクセントをつけるが、殆ど in Tempo。
- 結尾部分：きっぱりとして健康的な表現。

#### J. カルロス・マルティンス(Pf)

- Tempo : ♩=92±
- 冒頭のリズムの音楽的表現：ノンレガートに近い快活なスタッカート。
- 曲全体の移り変わり：全体にフォルテが主体。自由奔放な弾き方。
- 結尾部分：最後のカデンツはバス1オクターブ低音追加し、完全にフォルティッシモの音量。プレリュードでは極端なほど rit. をしているが、フーガの終わりは rit. せずに驚くほどあっさりとしている（譜例）。

The image shows a musical score for the end of a piece, consisting of two staves: a treble clef staff (piano) and a bass clef staff (bass). The score includes various dynamics and tempo markings. The piano staff starts with a box containing the number '28'. The markings include 'allegando', 'ff', 'rit.', 'a. tempo', 'mp', and 'rit. ㊤'. The bass staff has a 'rit. ㊤' marking at the end. The music features a mix of eighth and sixteenth notes, with some slurs and accents.

### 〈平均率 I 巻・第 3 番嬰ハ長調 BWV848〉

嬰ハ長調という調性は、この曲において音楽史上最初に作曲されたもの、と言われているが、バッハが「平均率」を採用し24の調全てを使用した為に生まれた傑作である。その明るく輝かしい響き、そして潤いのある流麗で魅惑的な旋律は特筆に値する。

#### プレリュード

##### 演奏解釈上重要と思われるポイント

- テンポ

- 音色 (タッチ)
- 上声と下声の掛け合い
- 第2部分 (63小節目~終りまで)

[譜例1・原典版 冒頭部分]

Musical score for Example 1, showing the beginning of the piece. It consists of two systems of piano music. The first system contains measures 1 through 7, and the second system contains measures 8 through 14. The music is written for piano with treble and bass staves. The key signature has three sharps (F#, C#, G#) and the time signature is 3/4. The melody in the right hand is characterized by a series of eighth-note patterns, while the left hand provides a steady accompaniment of eighth notes.

[譜例2・原典版 63小節より終りまで]

Musical score for Example 2, showing the latter part of the piece. It consists of four systems of piano music. The first system contains measures 52 through 59, the second system contains measures 60 through 67, the third system contains measures 68 through 75, and the fourth system contains measures 76 through 83. The music continues with the same piano texture as the first example, featuring intricate eighth-note patterns in both hands. The key signature and time signature remain consistent with the first example.

83

90

97

各校訂版及び演奏家の冒頭のアーティキュレーション

チェルニー：Vivace ♩.=92 (p)  
 ポリーフカ：Vivace (p)

バルトーク：Non troppo vivace ♩.=84 (pp) (Leggiero)



カセルラ：Allegro veloce leggiero ♩.=84 (p)  
井口基成：Vivace (p)  
ブゾーニ：Veloce leggiero (♩にテヌートがある)



パーマー：Vivace ♩.=84~92 (p) 右手 non legato



ムジェリーニ：Veloce ♩.=92 (p)

神澤哲郎：♩ = 66

(アーティキュレーションの表示はない)

ビショップ：Vivace ♩ = 84  
 レントゲン：Vivace ♩ = 84 (p) (Leggiero)

フェルツマン (Pf)：♩ = 80±      マルティンス (Pf)：♩ = 84±



フィッシャー (Pf) : ♩.=84±  
リヒテル (Pf) : ♩.=84±

ギーゼキング (Pf) : ♩.=106±  
シフ (Pf) : ♩.=78±



グールド (Pf) : ♩.=108±



デムス (Pf) : ♩.=100±

オールドウェル (Pf) : ♩.=92±

グルダ (Pf) : ♩ = 92 ±

次に前記のポイントを実際の演奏 (CD) より聴いてみよう。

エドウィン・フィッシャー (Pf)

- Tempo : ♩ = 82 ±
- 音色 : dolce で絶妙なハーモニーのバランス感覚。芳醇な味わいが湧き出るような弾き始めかた (譜例)。

- 上声と下声の掛け合い : 所々細かい所に乱れもあるが、それを差し引いてもあまりある美しい音に魅了される。生き生きとしているが、あくまでも静穏で上品な音楽の流れが表出される。
- 第2部分 (63小節目～終わりまで) : 子供をあやしているような優しい表現だが、最後は決然と終りを告げる。

ワルター・ギーゼキング (Pf)

- Tempo : ♩ = 106 ±
- 音色 : leggiero。健康的で新鮮さに満ち溢れている。涼風のような爽やかさを感じる。



- 上声と下声の掛け合い：スピーディに掛け合いをしているが、限度を越えないダイナミクスで遊びの軽やかさを楽しんでいる。
- 第2部分（63小節目～終りまで）：更に、それまでの遊びも佳境に入ったような勢いに発展するが、最後はホッとした様に、半ば飽きてしまったように終る。

#### スピャトスラフ・リヒテル(Pf)

- Tempo : ♩=92±
- 音色：躍動感のある音色で、安定した響き。
- 上声と下声の掛け合い：一糸乱れずに均整のとれたバランス。
- 第2部分（63小節目～終りまで）：厳然として一貫したテンポで、充実感をもって弾き切っている。

#### イヨルク・デムス(Pf)

- Tempo : ♩=100±
- 音色：穏やかな出だしから旋律の最高音に向かって生き生きと爽やかに *cresc.* と *accel.* をし、その後、伸縮自在に下降してくる。leggiero のタッチで、自由奔放だが押し付けがましくなく好感の持てる演奏である（譜例）。



- 上声と下声の掛け合い：おおらかで伸び伸びと掛け合いを楽しみ、こだわりのない自然さが感じられる。
- 第2部分（63小節目～終りまで）：1つ前の小節で少しテンポを緩めて絶妙な変化を見せ、第2部分に颯爽としたテンポで入る（譜例）。

52

60

最後は鮮やかな演技が終ったような壮快感を持って終る。

#### グレン・グールド(Pf)

- Tempo : ♩ = 108 ±
- 音色：極めて *animato* で *brillante* な音色。はじける様な明確なタッチで、疾駆する様なほど躍動的。
- 上声と下声の掛け合い：初めの下声に出てくる ♩ と ♪ はスタッカートで奏されるが、同じ音型が上声に移ったときはレガート（下声の時はリズムを強調、上声の時はメロディックな要素を重要視してか？）（譜例）。

8

しかし、47小節目の Fis - dur の部分は幾分 *dolce* で、下声の ♩ と ♪ の音型もレガート奏法に変化している。

- 第2部分（63小節目～終りまで）：この部分も一貫して躍動感を持って終結部に向かっていく。一声部のアルペジオからは大変興味深い演奏になっているのだが、あたかもそれまでの元気の良さをはにかむ様に遠慮深く静かに終わっている（譜例）。

97

何らかの理由で弾いていない。

フリードリヒ・グルダ(Pf)

- Tempo : ♩ = 92±
- 音色 : フォルテでマルカート。1拍目に特異なアクセントを一貫して付けている。
- 上声と下声の掛け合い : 決然としているがあまり変化を付けずにトッカータ的、エチュード的な感じがする。
- 第2部分 (63小節目～終わりまで) : それまでと変わらず、荒々しいとも思えるほど精力的に押し進んでいる。

アンドラーシュ・シフ(Pf)

- Tempo : ♩ = 78±
- 音色 : ノンレガートだが dolce で grazioso なニュアンス。
- 上声と下声の掛け合い : 上声は表情豊に輝かしい音も出しているが、下声は調和を重んじるように柔和な音色に終始している。上下の掛け合いも言い争うのではなく穏やかな団欒のような雰囲気である。
- 第2部分 (63小節目～終わりまで) : 生き生きとはしているがエチュード的にならず、気品を持ちながらほのぼのと自由に歌っている。下声の部分も伴奏だけに留まらず、所々レガートにより隠れたメロディを浮き出させている (譜例)。

60

68



#### エドワード・オールドウェル(Pf)

- Tempo : ♩ = 88±
- 音色：健康的で癖のない自然な表現。明るいレガートタッチ。
- 上声と下声の掛け合い：今一步踏み込んで表現してほしい感じもするが、バランスのとれた演奏。
- 第2部分（63小節目～終りまで）：中庸な節度を越えないもって行き方。

#### ウラデミール・フェルツマン(Pf)

- Tempo : ♩ = 80±
- 音色：leggiero で non legato タッチ。小節の中間に浮きを感じさせる独特な弾き方。
- 上声と下声の掛け合い：こだわり無く前向きに、次を促すような弾き方。
- 第2部分（63小節目～終りまで）：軽やかで粹な感じを求めているようだ。

#### J. カルロス・マルティンス(Pf)

- Tempo : ♩ = 84±
- 音色：明るく華やかな音色を目指しているように思える。
- 上声と下声の掛け合い：緊張感と精力的なものは感じるが、やや直進的な印象。
- 第2部分（63小節目～終りまで）：細かなところに多少の変化は付けているが、ここでも直進的な印象は変わらない。しかし終止の所だけそれまでの印象を翻すようなニュアンスを付け、ピアノで分散和音にして終わっている。

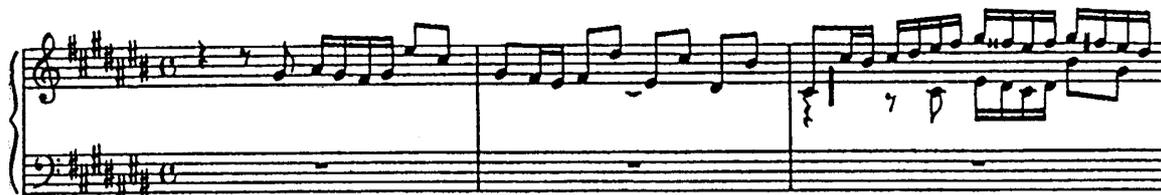
### 〈平均率 I 巻・第3番嬰ハ長調 BWV848〉

#### フーガ

この曲はバッハの平均率の中でもとりわけ気品と幸福感に満ち溢れた名曲である。

優美さと同時に、潑刺とした生命感も内包している冒頭の主題をどう演奏するかという事に、まず興味を覚える。それは主題の連続する8分音符の弾き方に、大きく係わってくると思われる。優美さをより重要視すれば自ずと柔らかなニュアンスになるだろうし、快活さを強調

すれば弾力性のあるはっきりとしたスタッカートが考えられるが、微妙なバランスで双方を兼ね備えたものも当然否定できないであろう（譜例）。



そして目まぐるしく転調を重ねていくわけだが、曲全体（55小節）の中で特に重要な部分として筆者は35小節目から44小節目までを取り上げたい。そこは後のソナタ形式の展開部から再現部に戻る劇的な部分を思わずにはいられないからである。

まず35、36小節目では4拍目の後半にその部分の最低音として嬰ト音（主調の属音）が現れ（注. 1）、37、38小節目では嬰ト音は完全な持続低音となり（注. 2）、さらに上下が入れ替り38小節目の3拍目から39、40小節と高音部に持続して現れ強調されている（注. 3）。兎に角、42小節目に主題が主調で再現（注. 4）するまでの35小節目から41小節目まではドミナントである嬰ト音に支配されていると言ってよいだろう。

この部分が特異なのは他に二つ理由がある。

一つは、この曲は3声のフーガだが、この部分が他と違い長い範囲で2声であるということ。それは実は31小節目から始まっていて44小節目の初めの音までで、ほぼ14小節間である。

もう一つは、その2声の下声部がどんどん上行し、上声部に接近し、上声部の二点嬰ト音がこの曲の最高音でないにもかかわらず、印象としては39小節目が曲全体の最高音部に感じられること。

それらにより緊張と盛り上がりを表出し、少し下降しさりげなく主題に入っていく（42小節目）バッハの作曲技法の巧みさには驚き入るばかりだが、如何であろうか。

（次頁譜例）

Musical notation for measures 35 and 36. Measure 35 is marked with a box containing the number 35. Measure 36 contains two annotations: (注. 1) above the first half and (注. 1) above the second half. The notation includes treble and bass staves with various rhythmic values and accidentals.

Musical notation for measures 37 and 38. Measure 37 is marked with a box containing the number 37. Measure 38 contains an annotation (注. 3) above a circled note. Measure 37 also contains an annotation (注. 2) above the middle of the measure. The notation includes treble and bass staves with various rhythmic values and accidentals.

Musical notation for measures 39 and 40. Measure 39 is marked with a box containing the number 39. The notation includes treble and bass staves with various rhythmic values and accidentals.

Musical notation for measures 41 and 42. Measure 41 is marked with a box containing the number 41. Measure 42 contains an annotation (注. 4) above the middle of the measure. The notation includes treble and bass staves with various rhythmic values and accidentals.

Musical notation for measures 43 and 44. Measure 43 is marked with a box containing the number 43. The notation includes treble and bass staves with various rhythmic values and accidentals.

各校訂版及び演奏家の冒頭のアーティキュレーション



カセルラ：Allegro moderato e grazioso ♩=104 (p) (Des - dur)

井口基成：Allegro moderato (p)

バルトーク：Allegro grazioso ♩=92 (p)

ムジェリーニ：Allegro moderato ♩=96

レントゲン：Allegro moderato ♩=92

レオンハルト (Cembalo)：♩=67±

ジャコッテ (Cembalo)：♩=88±

コープマン (Cembalo)：♩=86±

ギーゼキング (Pf)：♩=96~108

リヒテル (Pf)：♩=110±

マルティンス (Pf)：♩=106±



チェルニー：Allegro ♩=104 (p)

ポーリーフカ：Allegro moderato (p)

ブゾーニ : Allegro moderato (mp)

This block contains a musical score for the piece 'ブゾーニ' (Buzoni). The score is written for piano and consists of three measures. The first measure shows the beginning of the piece with a treble clef, a key signature of three sharps (F#, C#, G#), and a common time signature. The melody in the treble clef starts with a quarter rest, followed by a series of eighth and sixteenth notes. The bass clef part has a whole rest. The second measure continues the melody with a slur over the first two notes. The third measure features a more complex melodic line with a slur over the first two notes and a final note with a fermata.

ビショッフ : Allegro ♩=100 (con grazia)  
 シュターデ : Allegro ♩=100 (con grazia)

This block contains two musical scores. The top score is for 'ビショッフ' (Bischoff) and the bottom score is for 'シュターデ' (Sturde). Both are in the same key signature and time signature as the first piece. The 'ビショッフ' score has three measures, with the first measure starting with a quarter rest and the second measure having a slur over the first two notes. The 'シュターデ' score also has three measures, with the first measure starting with a quarter rest and the second measure having a slur over the first two notes. The third measure of both scores features a more complex melodic line with a slur over the first two notes and a final note with a fermata.

神澤哲郎 : ♩=92 (mf)

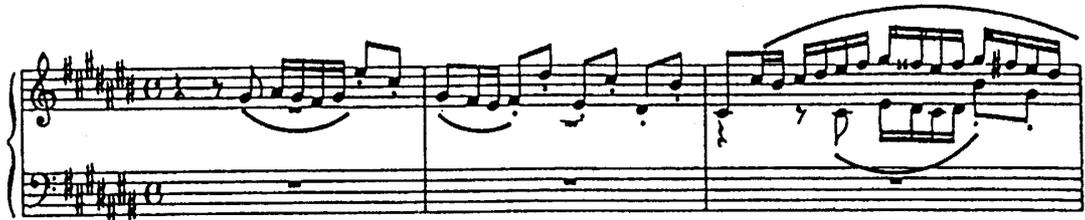
This block contains a musical score for the piece '神澤哲郎' (Tomihiko Kaminazawa). The score is written for piano and consists of three measures. The first measure shows the beginning of the piece with a treble clef, a key signature of three sharps (F#, C#, G#), and a common time signature. The melody in the treble clef starts with a quarter rest, followed by a series of eighth and sixteenth notes. The bass clef part has a whole rest. The second measure continues the melody with a slur over the first two notes. The third measure features a more complex melodic line with a slur over the first two notes and a final note with a fermata.



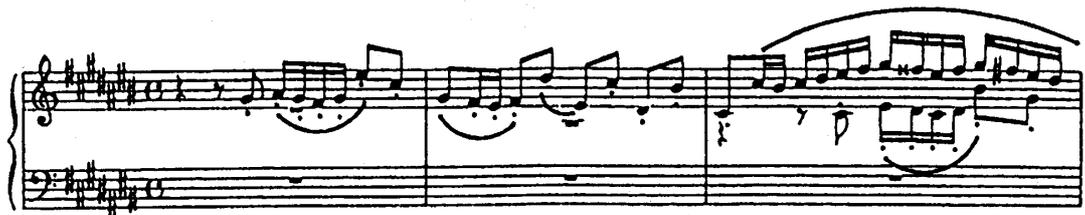
パーマー : Allegro grazioso ♩ = 84~96 (mp)



デムス (Pf) : ♩ = 98±



フィッシャー (Pf) : ♩ = 100±



シフ (Pf) : ♩ = 92±

Old Well (Pf) : ♩ = 100 ±

The musical score for 'Old Well' is presented in a grand staff with two systems. The first system contains the first two measures, and the second system contains the next two measures. The music is in a key with three sharps (F#, C#, G#) and a 3/4 time signature. The melody in the right hand features a mix of eighth and sixteenth notes, with some phrases slurred together. The left hand provides a steady accompaniment with quarter notes and rests.

Gould (Pf) : ♩ = 108 ~ 112

The musical score for 'Gould' is presented in a grand staff with two systems. The first system contains the first two measures, and the second system contains the next two measures. The music is in a key with three sharps (F#, C#, G#) and a 3/4 time signature. The melody in the right hand is more active, featuring many sixteenth notes and some slurs. The left hand accompaniment consists of quarter notes and rests.

Feltzman (Pf) : ♩ = 96 ±

The musical score for 'Feltzman' is presented in a grand staff with two systems. The first system contains the first two measures, and the second system contains the next two measures. The music is in a key with three sharps (F#, C#, G#) and a 3/4 time signature. The melody in the right hand is characterized by a steady stream of sixteenth notes, with some slurs. The left hand accompaniment consists of quarter notes and rests.

グルダ (Pf) : ♩ = 100 ±

実際の演奏 (CD)

エドウィン・フィッシャー (Pf)

- Tempo : ♩ = 100 ±
- 冒頭の部分：舞曲的な優雅な動きを思わせる。特に、冒頭の16分音符の連続から主題の最高音 (Eis) に向かう部分に流麗な踊りの回転を連想させる。
- 音色：主題の8分音符は軽やかなスタッカート。洗練された軽やかさと優美さを持っている。
- 35小節～44小節：それまでの優美さに力強さが加わり、感動的な盛り上がりを見せる。そして、こだわりなく主題の再現に入り、充足感のある自然な弾き方。
- 終結部分：フォルテの音量で決然として堂々とした終わりがた。

ワルター・ギーゼキング (Pf)

- Tempo : ♩ = 96 ~ 108 (流動的)
- 冒頭の部分：テンポは他の部分に比べてゆっくりめ。舞曲的ではあるが *capriccioso* な感じ。

- 音 色：独特の弾みのある *leggiero* タッチ。
- 35小節～44小節：左手が高音域になったことによって特に *leggiero* タッチを強調している。穿って言えばその部分の全体が、低音部の属音（Gis）から昇華された装飾音符の様な爽やかで明るい音色に聞こえる。そして42小節目の再現部分は初めと同じ様にゆっくりめに表現される。
- 終 結 部 分：落ち着いた自然な終わりかた（最終音での *dim.* なし）。

#### スピヤトスラフ・リヒテル(Pf)

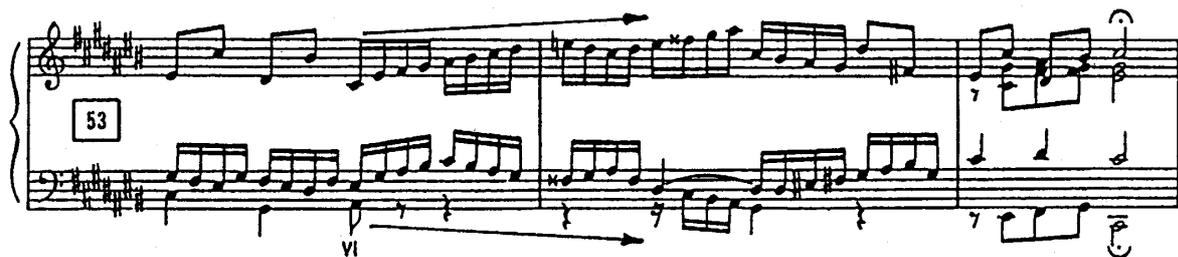
- Tempo : ♩ = 110 ±
- 冒頭の部分：決然として一貫したテンポで始まる（他の部分と比べれば幾分優雅なニュアンス）。
- 音 色：8分音符は躍動感のあるスタッカート。躍動感が増す部分ではテーマの6度進行の弱拍（上の音）が、より強調されたスタッカートになっている。
- 35小節～44小節：38小節の強調された属音が高音部に移ってからは特に一音一音がきらびやかに演奏され、鮮やかな盛り上がりを見せている。主題の再現ははっきりと意識され、冒頭の部分と違って力強く奏されている。
- 終 結 部 分：区切りよく落ち着いて終わっている（最終音での *dim.* なし）。

#### イヨルク・デムス(Pf)

- Tempo : ♩ = 98 ±（流動的）
- 冒頭の部分：上品な舞曲の雰囲気。6度進行の下降に伴い情緒的な *dim.*（譜例）。



- 音 色：潤いのある *leggiero* タッチ。メロディーによっては *cantabile* になる所もしばしば見られる。
- 35小節～44小節：39～41小節の下声が増した部分は、特に *leggiero* のタッチで愛情の籠った細やかな歌い方。テーマの再現はさり気なく入るが、躍動感を取り戻す。
- 終 結 部 分：53小節目の偽終止を特に力強く強調し（譜例）、16分音符の声部の反進行を念入りに対比しつつ緩やかに収まっていく。最後はやや *dim.*。



儀終止

### グレン・グールド(Pf)

- Tempo : ♩ = 108~112
- 冒頭の部分：飛び抜けて明快で躍動感のある表現。思わせ振りのアゴギクやダイナミクスを殆ど付けずに無造作に弾いているが、決して無味乾燥にはならない。
- 音色：洗練されたタッチで明確なスタッカート。brillanteでanimato。場所によっては特にleggieroなスタッカートもある。所々、テーマのアーティキュレーションのヴァリエーションも見られる。
- 35小節~44小節：一貫して整然としたテンポだが、下声部の上昇に伴い音色は輝かしさを増し嬉嬉とした表現に満たされる。
- 終結部分：ここでも一貫して躍動感に溢れる演奏だが、最後のカデンツの8分音符の和音は極めて短いスタッカートで区切りよく終わっている（最終音でのdim.なし）。

### フリードリヒ・グルダ(Pf)

- Tempo : ♩ = 100±
- 冒頭の部分：フォルテでmarcato。強拍部の強いアクセントが特徴的。
- 音色：ノンレガート奏法。時々刺激的なスタッカートとアクセントが見られる。
- 35小節~44小節：ダイナミクスは見られるが全体的に淡々としている。
- 終結部分：決然として力強く堂々と終わっている（最終音でのdim.なし）。

### アンドラーシュ・シフ(Pf)

- Tempo : ♩ = 92±
- 冒頭の部分：穏やかで優美な舞曲風。テーマの後半の6度跳躍の下降を2声のように扱っている。6度跳躍の最初の上の音(Dis)を延ばしめに強調しているため、シンコペーションを感じとることができる（譜例）。



- 音 色：全体に *leggiero* のタッチだが表情は豊かで暖かみのある音色。
- 35小節～44小節：属音が上声部に反転する38小節目の2分音符のGis音に付けられた長い装飾音は、はっとするような爽やかな緊張感を出している。そして高揚感を保ちながら下声のテーマの断片をたっぷりと歌い、満ち足りて再現部に降りてくる。再現部では主題を明瞭に印象づけている。
- 終 結 部 分：53小節目の偽終止を明確に強調し（デムスの欄の譜例を参照）、16分音符の反進行の対比も鮮やかに弾き、最後は穏やかに終わっている（最終音はアルペジオでやや *dim.*）。

#### エドワード・オールドウェル(Pf)

- Tempo : ♩ = 100 ±
- 冒頭の部分：あっさりとした弾き方。6度跳躍のアーティキュレーションはシフに似ている。
- 音 色：淡々として拘りのない音色。
- 35小節～44小節：ダイナミクス的な盛り上がりを見せ、下声部の最高音部分はテヌート気味。
- 終 結 部 分：最後は厚みのある音量で堂々と終わっている（最終音はアルペジオで *cresc.*）

#### ウラデミール・フェルツマン(Pf)

- Tempo : ♩ = 96 ±
- 冒頭の部分：けれん味のない健康的な演奏。
- 音 色：ノンレガートで *marcato*。随所にトリルを入れてチェンバロ的なアゴーギクを付けている。
- 35小節～44小節：健康的で潑刺とした盛り上げ方。
- 終 結 部 分：偽終止を強調している。カデンツは *dim.* し、洒落た感じか？

#### J. カルロス・マルティンス(Pf)

- Tempo : ♩ = 106 ± (流動的)

- 冒頭の部分：フォルテで男性的。8分音符の6度跳躍は弱拍を強調している。
- 音色：marcato でダイナミクスが大きい。
- 35小節～44小節：39, 40, 41小節のテーマの断片の3拍目を強調しながら、再現部に入りそこでも同じような強調を更に付けている。
- 終結部分：大きなダイナミクスで殆ど rit. せずにフォルティッシモで終わっている。

### 〈平均率 I 巻・第 5 番二長調 BWV848〉

#### プレリュード

このプレリュードは大変明るく陽気な曲だが、演奏するものにとっては、その右手の16分音符の連続は容易とは言えず、名のある往年のピアニスト達も難曲の一つとして意識していた様である。一見自由気儘に動いている右手だが、バッハが技術的な開発を意図し教育的な目的もあったらしい。左手の1拍単位で上下する8分音符は、ボール遊びをしているようで、自由奔放な右手と相まって愉快的気分を一層引き出している。

#### 演奏解釈上重要と思われるポイント

- テンポ
- 音色
- 属音（A音）のオルゲルプункトの始まりから（27小節）、最後の3小節（33小節～終り）。

The image shows three systems of musical notation for the first three measures of the Prelude in G major, BWV 848. The first system covers measures 27 to 29, the second system covers measures 30 to 32, and the third system covers measures 33 to 35. The right hand plays a continuous sixteenth-note pattern, while the left hand plays eighth notes. An arrow points to the beginning of measure 27, labeled 'オルゲルプункト' (Orgelpunkt).

各校訂版の冒頭のアーティキュレーション

速度、発想標語とテンポ表示のみの校訂版を先に列記する。



- ビショッフ : Vivace ♩=132 (leggiero)  
井口 基成 : Allegro con spirito (p) (leggiero)  
パーマー : Allegro ♩=112~126 (p) (leggiero)  
レントゲン : Vivace ♩=126 (p) (leggiero) 神澤哲郎 : ♩=138



- チェルニー : Allegro vivace ♩=132 (p) (leggiermente)  
ポリーフカ : Allegro (leggiermente)  
ムジェリーニ : Allegro vivace e brillante ♩=126  
(p) (leggiero, scorrevole e poco legato)  
scorrevole → 流暢に, なめらかに



- ブゾーニ : Allegro con spirito e molto scorrevole

バルトーク : Allegro vivace ♩=138

カセルラ : Allegro veloce e leggiero ♩=132

実際の演奏 (CD)

エドウィン・フィッシャー (Pf)

- Tempo : ♩=132±
- 音色 : 右手は *leggiero* で *elegante* なノン・レガートのタッチ。左手はきっぱりとしているが舞曲のステップを思わせる上品なスタッカート。
- 属音のオルゲルポイントから最後まで (27小節～終り) : 自然な盛り上げ方で33小節目に進んでいくが、そこからの最後の3小節はドラマティックで力強い弾き方。33小節目の32分音符はスリリングで印象的。その後の34小節目の二つの減七の和音は両方ともアルペジオ。最後まで力強さを損なわないで締め括っている。

ワルター・ギーゼキング (Pf)

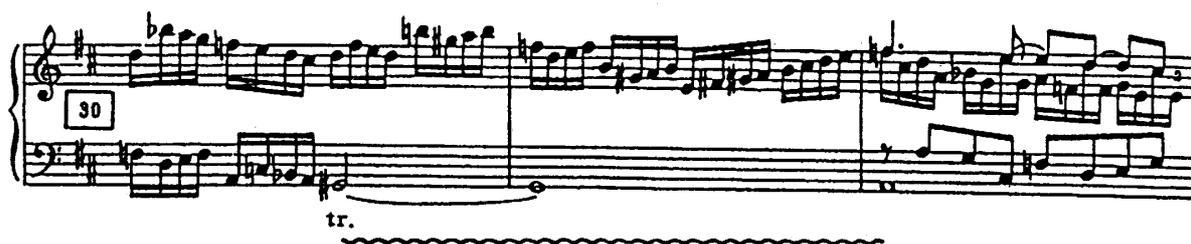
- Tempo : ♩=132~160± (最初は少しのんびりと132ぐらいだが次第に躍動感を増し、中間は160±のテンポになり33小節以降は少し落ち着いた感じになる。)
- 音色 : 右手は健康的で躍動感のあるレガート・タッチ。左手は右手より少し控え目で、こだわりのないスタッカート。全体に気楽で遊び心が感じられる音色。
- 属音のオルゲルポイントから最後まで (27小節～終り) : 程よく盛り上げている (心理的に気軽な気持ち)。最後の3小節は力強く、区切りよく終わっている (dim. はなし)。34小節目の二つの減七の和音は両方ともアルペジオ。

### スピヤトスラフ・リヒテル(Pf)

- Tempo : ♩=146±
- 音色：躍動感はあるが他と比べてまろやかで清澄な音色。その為、他と比べ、速さは、メトロノームよりも落ち着いた緩やかさを感じさせる。右手はレガートだが左手は音量も右手よりかなり小さく、軽く短いスタッカート。このような左右のバランスによって、実際のテンポは速いのだが、穏やかな流れになっている。
- 属音のオルゲルプункトから最後まで (27小節～終り)：自然で節度のある盛り上げ方。32小節目の四声部の所はゆったりとしたテンポになり、無理のない弾き方で33小節目に入る。終始自然さと整然さを保ち堂々と終わっている。34小節目の和音は3拍目までアルペジオ。

### イヨルク・デムス(Pf)

- Tempo : ♩=136±
- 音色：穏やかで、音量を出し過ぎずに細かなニュアンスに気を配っている。左手はチェロカコントラバスのピッチカートのような音色。
- 属音のオルゲルプункトから最後まで (27小節～終り)：それまでと変わって緊張感を持ち、積極的に盛り上げている。30小節目の3拍目から31小節目のバス (Gis) に長いトリラーを付け (譜例)、緊張感を出している。最後の3小節もドラマティックな弾き方。特に34小節目の二つの減七の和音はアルペジオで強調した弾き方。最後は程よく力強く終わっている。



### グレン・グールド(Pf)

- Tempo : ♩=160
- 音色：左右ともに非常に brillante で力強くもある。左手は所々響きに変化をつけて隠れたメロディーの断片、あるいは四声体の内声部の動きを彷彿させるものがある。
- 属音のオルゲルプункトから最後まで (27小節～終り)：盛り上がるというより、それまで

の活発な動きが展開し花開いて行きエネルギーを出しきり、33小節目のA音の持続低音の上の減七の和音に到達する。それ故、最後の3小節は余韻を楽しむように静かな味わいとなっている。34小節から最終小節の和音は全てアルペジオ。

#### フリードリヒ・グルダ(Pf)

- Tempo : ♩ = 136
- 音色 : 左右ともに力強い硬質で均質な音。所々四声体を意識した響きを作っている。
- 属音のオルゲルポイントから最後まで (27小節～終り) : 32小節目までは一貫したテンポ。息をつく間もなく緊張感が最後まで持続する。30小節目の3拍目から31小節目のバス (Gis) に長いトリラーを付け (前譜例) ている。33小節目の32分音符は多めのアゴーギクをつけている。34小節目の二つの減七の和音は両方ともアルペジオ。最終音はフォルテシモ。

#### アンドラーシュ・シフ(Pf)

- Tempo : ♩ = 126±
- 音色 : 穏やかで明るいノン・レガート。他と聞き比べると牧歌的な感じすらする。暖かみのある細やかなニュアンスがついている。
- 属音のオルゲルポイントから最後まで (27小節～終り) : 少しずつ精神的になって行き、34小節目の二つの減七の和音が力強さのピークになり、その後は充実感を持ちながらも穏やかに終わっている。34小節から最終小節の和音は全てアルペジオだが最後の和音は上下する長めのアルペジオ。

#### エドワード・オールドウェル(Pf)

- Tempo : ♩ = 132±
- 音色 : 穏やかで落ち着いた音色。ほぼレガート・タッチ。四声部を意識してか、所々少なからず左右ともに音を残している。
- 属音のオルゲルポイントから最後まで (27小節～終り) : 少しずつ音量を上げていき、ポイントと思われる音にアゴーギクを付けている。30小節目の3拍目のバス (Gis) にトリラーを付け (デムスの欄参照) ている。34小節から最終小節の和音は全てアルペジオで最後の三つは上下する大変長めのアルペジオ。減七のアルペジオはグールドに似ていて、幻想的なニュアンスをつけている。最後は穏やかに終わっている。

### ウラデミール・フェルツマン(Pf)

- Tempo : ♩=112 (かなりゆっくりめ。リヒテルやグールドの演奏とは完全に印象が違っている)
- 音色 : 穏やかで一音一音ははっきりしたレガート・タッチ。控え目だが丁寧にニュアンスを付けている。18小節目の4拍目の右手にトリラーを入れている。
- 属音のオルゲルプункトから最後まで (27小節～終り) : 30小節あたりから少しアゴーギクをつけ盛り上がりを見せ、3拍目からのバス(Gis)に長いトリラーを付け (前譜例), そこは少し accel. している。33小節目から最後は自由奔放に弾いている。34小節の和音は全てアルペジオで3拍目と4拍目は上下する大変長めのアルペジオでトリラーも入れている。

### J. カルロス・マルティンス(Pf)

- Tempo : ♩=176 (大変な勢い)
- 音色 : feroce 又は agitato ですらある。しかし聴く人によっては giocoso に感じられるのであろうか。
- 属音のオルゲルプункトから最後まで (27小節～終り) : 27小節に入り、少しだが落ち着きを見せる。その後は34小節目の減七の和音まで一貫してエネルギッシュに弾き、その後の最後の三つの和音は肩透かし気味に穏やかに弾いている。34小節から最後まで和音は全てアルペジオで減七の和音の後は上下するアルペジオ。

## 〈平均率 I 巻・第5番ニ長調 BWV848〉

### フーガ

このフーガはなんと単純明快で完全無欠な意志を持った曲であろうか。晴れ晴れとして大手を振って行進しているような、全く一点の曇りもない心持ちはバッハ自身この曲を作ったときの意気揚々とした心理状態を想像するに難くない。この曲は動機 (モチーフ) 的に見てたった二つの要素しかない。冒頭を見ても一目瞭然だが、一つは32分音符の8個連続の音型、もう一つはその次の付点のリズムである (譜例)。



又、9小節目の2拍目から高音部で16分音符の連続の音型が、ちょっと聴いた限りでは目新

しい要素に見えるが、実はこれも一つ目の要素、32分音符連続の後半の4音の拡大型である。勿論理論的な事は差し置いて、ここも音楽的に重要な部分として考えたいのであるが（譜例）。

Musical score for measures 8 and 9. The score is written for piano in G major (one sharp) and 4/4 time. Measure 8 shows a treble clef staff with a sequence of eighth notes and a bass clef staff with a sequence of eighth notes. Measure 9 continues the sequence with a treble clef staff featuring a triplet of eighth notes and a bass clef staff with a sequence of eighth notes. The key signature has one sharp (F#).

ここと17小節目の2拍目からの部分は大きく見て下降に向かっていている。他の上昇前進の意志からすると、一休みの部分か。21小節目の2拍目から22小節目の頭までの部分は少し性格が違うかも知れない（譜例）。

Musical score for measures 16 and 17. The score is written for piano in G major (one sharp) and 4/4 time. Measure 16 shows a treble clef staff with a sequence of eighth notes and a bass clef staff with a sequence of eighth notes. Measure 17 continues the sequence with a treble clef staff featuring a triplet of eighth notes and a bass clef staff with a sequence of eighth notes. The key signature has one sharp (F#).

Musical score for measures 18 and 19. The score is written for piano in G major (one sharp) and 4/4 time. Measure 18 shows a treble clef staff with a sequence of eighth notes and a bass clef staff with a sequence of eighth notes. Measure 19 continues the sequence with a treble clef staff featuring a triplet of eighth notes and a bass clef staff with a sequence of eighth notes. The key signature has one sharp (F#).

Musical score for measures 20 and 21. The score is written for piano in G major (one sharp) and 4/4 time. Measure 20 shows a treble clef staff with a sequence of eighth notes and a bass clef staff with a sequence of eighth notes. Measure 21 continues the sequence with a treble clef staff featuring a triplet of eighth notes and a bass clef staff with a sequence of eighth notes. The key signature has one sharp (F#).

Musical score for measure 22. The score is written for piano in G major (one sharp) and 4/4 time. Measure 22 shows a treble clef staff with a sequence of eighth notes and a bass clef staff with a sequence of eighth notes. The key signature has one sharp (F#).

しかし、前述の二つの要素だけで全体が出来ているということが完全無欠さを生んでいると言えよう。

一つ目の要素、32分音符の音型は前半で主音(D)から始まりテトラコードの中でG音まで上昇し、後半で下降するが Fis, E, Fis, D という音型は、この場合明らかに次に大きく上昇する為のはずみになっている。そして次にテトラコードから大きく外れて6度跳躍し、H音に行き着く。ここには大変な「飛躍」を感じさせるものがある。

そして二つ目の要素の付点のリズムの音型に移るが、これは順次進行しなだらかに下降するが一カ所上行する部分があり、それにより付点のリズムと相まって新たな展開を予想させ、前へ進むエネルギーを感じさせる。



要するに、一つ目の要素（32分音符の連続）で上に登る意志を示し、二つ目の要素（付点のリズム）で前進する意志を示していると言えるのではないだろうか。そしてそれは最後（24小節目から）各々の要素が連続し声部が同時進行し、さらに意志をはっきりと打ち出している。



演奏解釈上重要と思われるポイント

- テンポ
- 音色
- 付点のリズム（これを譜面どおりにするか、鋭くして後の音符を32分音符にするかは大変議論されている）
- 拡大音型の部分（9小節目の2拍目から2小節目間と、17小節目の2拍目から3小節目間と、21小節目の2拍目から22小節目の頭まで）
- 終結部（23小節目から最後まで）

各校訂版の冒頭のアーティキュレーション

速度，発想標語とテンポ表示のみの校訂版を先に列記する。

- ビショッフ : Allegro moderato ♩=80 (risoluto e sempre marcato)  
シュターデ : Allegro moderato ♩=80 (risoluto e sempre marcato)  
ムジェリーニ : Allegro moderato ed energico ♩=69 (f) (risoluto e poco legato)  
井口 基成 : Moderato e maestoso (f) (marcato)  
パーマー : Maestoso ♩=52~60 (f) 神澤哲郎 : ♩=60



- チェルニー : Allegro moderato ♩=76 (f) (marcato)  
ポリーフカ : Allegro moderato (f) (marcato)



- ブゾーニ : Allegro moderato ed eroico, piuttosto Andante (sempre f)  
eroico → 勇ましく piuttosto → やや，幾分



バルトーク：Maestoso ♩=60



レントゲン：Allegro moderato ♩=60 (f) (risoluto e marcato)

実際の演奏 (CD)

エドウィン・フィッシャー (Pf)

- Tempo : ♩=60±
- 音色：明快で晴れやかな音色。健康的で力強く堂々としているが、4声部が高音域に移った部分などはpで柔らかく軽やかな音色。すっきりと弾いているがニュアンスも綺麗に付いている。
- 付点のリズム：音符どうりで、威風堂々としている。
- 拡大音型（下降）の部分：9小節目からと17小節目からは爽やかに澄んだ音で静かに軽やかに弾いている。21小節目からは高らかな音色で大きく盛り上げている。
- 終結部（23小節目～最後）：脇目もふらず真正面を向いて上り詰め、力強く進めている。25小節目からの左手はオクターブ追加。

ワルター・ギーゼキング (Pf)

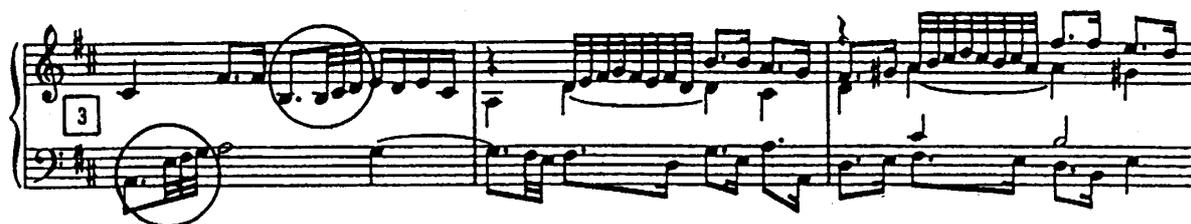
- Tempo : ♩=68±~74±

- 音 色：全く一貫して力強く勢いのよい音色。
- 付点のリズム：16分音符の前に小さな切れ目を入れ、ニュアンス的には複付点に近いが、ほぼ譜面の音符どおり。拍の強部のアクセントを強調。
- 拡大音型（下降）の部分：ここでも音楽的な勢いは衰えず、力強く弾き切っている。
- 終結部（23小節目～最後）：終始一貫して精力的に弾いているが、最後は少し落ち着きと広がりを持って終わっている。

### スピャトスラフ・リヒテル(Pf)

- Tempo : ♩=60
- 音 色：堂々として落ち着きのある音色。ハーモニーの弾き方も完全な調和を主眼としている。確実な歩みを感じさせるテンポの進め方。
- 付点のリズム：譜面の音符どおり。のびのびしたニュアンスを持ち、自然で調和のある弾き方。3小節目にある付点8分音符の次の32分音符3つのリズムも、譜面どおりに3連符として明確に弾いている。

[譜例] (ここも譜面どおりのリズムと、タイで結んだ32分音符四つリズムという説がある)



- 拡大音型（下降）の部分：明確さと整然とした感じを損なわない程度に、穏やかに弾いている。
- 終結部（23小節目～最後）：充実した盛り上がりを見せるが、特別に意識した感じはなく、自然さと調和を重要視しているようである。

### イヨルク・デムス(Pf)

- Tempo : ♩=60±
- 音 色：はっきりしていて味わいのある重厚な音色。フィッシャーのように、所によってpで柔らかく軽やかな音色もある。
- 付点のリズム：拡大音型（下降）の部分を除いて、全て完全な複付点のリズム。細かい音符

の方にも十分なアクセントを付けている。

- 拡大音型（下降）の部分：上記のようにこの部分の付点は譜面の音符どおりのリズム。9小節目からと17小節目からは優しく柔らかな音で、少し dim. しながら下降してくる。21小節目からは興奮し cresc. しながら下降し、意味深長に22小節目の属七の和音に到達する。
- 終結部（23小節目～最後）：23小節目の左右の音型は対話をしているようなニュアンスだが24小節目からは、左右の同意を得てのびやかに盛り上がりを見せている。25小節目からの左手はオクターブ追加し、大変重厚なハーモニーを作り出している。

### グレン・グールド(Pf)

- Tempo : ♩ = 66 ±
- 音 色：エネルギッシュで輝かしい音色。そして非常に嬉嬉とした弾みを感じられる。
- 付点のリズム：複付点、その次に譜面どおりの普通の付点、という交互のパターンに殆どが統一されている。主題の最高音に飛躍した部分の付点が複付点で緊張感、高揚感を出し、その後順次下降で緊張が少し緩んだ普通の付点になり、前に述べた一カ所上行する部分でまた複付点、次の下降で普通の付点という解釈は、成る程と思わざるを得ない（譜例）。



- 拡大音型（下降）の部分：音量は殆ど変化させずに付点のリズムの変化、複付点（緊張）普通の付点（緩和）という順番により下降してくる表現をしている。しかし21小節目からの部分は前の二つの部分（9小節目～，17小節目～）より高らかに力強く弾いている。
- 終結部（23小節目～最後）：23小節目の2拍目から始まる32分音符の連続では緊張感をずっと保ち続け24小節目の4拍目（32分音符の音型の最高音域）では冒頭と同じように主音にアゴーギクをつけ、盛り上がりを見せている。25，26小節目の和音の連続の付点のリズムは、やはり複付点，付点という交互のパターンに統一し、力強く堂々と締め括っている。

### フリードリヒ・グルダ(Pf)

- Tempo : ♩ = 57 ±
- 音色 : 終始変わらず marcato の音色でフォルテの音量。前打音, 装飾音等を意図的に随所に付けている。
- 付点のリズム : 譜面どおりで決然としたリズム。どういう訳か, 22小節目の3拍目だけ複付点になっている。
- 拡大音型 (下降) の部分 : 他の部分と殆ど弾き方は変わっていない。
- 終結部 (23小節目~最後) : どっしりと力強く盛り上げている。32分音符連続の音型は1拍を二つに分け4音のモチーフとして意識している。

### アンドラーシュ・シフ(Pf)

- Tempo : ♩ = 62 ±
- 音色 : 晴れやかで堂々としているが, 他のピアニストと比べると軽く細やかな神経が感じられる。
- 付点のリズム : 完全な複付点ではっきりしているが爽やかさがある。3小節目にある付点8分音符の次の32分音符3つのリズムは, リヒテルと同じように譜面どおりに3連符のリズムになっている。拡大音型の部分は複付点ではなく譜面どおりのリズム (譜例)。

The image displays two musical scores. The top score is for Friedrich Gulda, showing a piano part with a treble and bass clef. It features a series of 32nd notes in the right hand and a more rhythmic accompaniment in the left hand. The bottom score is for András Schiff, also in piano format. It shows a more complex texture with overlapping melodic lines and a prominent 32nd-note motif in the right hand. Both scores are in G major and 3/4 time.

- 拡大音型（下降）の部分：9小節目からと17小節目からは、明快に歌い少し dim. しながら軽やかに下降してくる。21小節目からは dim. しないで緊張感を保ちながら22小節目の属七の和音にどっしりと到達する。
- 終結部（23小節目～最後）：23小節目の2拍目から始まる32分音符の左右の音型は劇的に訴えかけるように弾き、24小節目の2拍目からの同時進行では颯爽と盛り上がり25小節目の最高音に駆け上る。その後は威風堂々と歩を進め最終音は落ち着いた響きで終わる。

#### エドワード・オールドウェル(Pf)

- Tempo : ♩ = 58 ±
- 音色：適度な力強さを持ち各音明瞭に弾いているが穏やかなニュアンス。
- 付点のリズム：伸びはあるが一貫して譜面どおりのリズム。3小節目にある付点8分音符の次の32分音符3つのリズムは3連符として明確に弾いている。
- 拡大音型（下降）の部分：9小節目からと17小節目からは、初め高らかに歌い下降の最後に少し dim.。21小節目からの部分は大きな山を意識し特にたっぷりと歌い、充実感を保ちつつ降りてくる。
- 終結部（23小節目～最後）：23小節目からは大きな旋律線のとおり一旦逡巡するが、思い直したように力強く25小節目の最高音に登り詰める。最後は特に幅の広い音で堂々と終わっている。

#### ウラデミール・フェルツマン(Pf)

- Tempo : ♩ = 60 ±
- 音色：力強い marcato で時折スタッカーティッシモ。
- 付点のリズム：拡大音型の部分を除いて明快な複付点。殆どが間に休符が入り複付点のリズムを際立たせている。3小節目にある付点8分音符の次の32分音符3つのリズムは、リヒテル、シフ、オールドウェルと同じように3連符の弾き方。
- 拡大音型（下降）の部分：9小節目からと17小節目からは、スタッカートを変えて極めて快活に弾いている。21小節目からは和音をアルペジオにし、少し rit. しながら下降する。22小節目の属七の和音は上下するアルペジオとトリラーを交え、あたかもフェルマータがあるように区切りを付けている。
- 終結部（23小節目～最後）：23小節目からは殆ど一貫した躍動感を持って25小節目の最高音に盛り上がっていく。最後は荘厳さを持ってゆったりと締め括っている。

#### J. カルロス・マルティンス(Pf)

- Tempo : ♩ = 38 ±（複付点のリズムの速度）～ 46 ±（32分音符連続の音型の速度）

※注釈 冒頭から32分音符の音型と付点の音型で上記のようにテンポが甚だしく違うこの演奏は、どう聴いても奇を衒っている様にしか感じられないがユニーク、または独創的と言えるのであろうか。

- 音色：marcato で重厚な音色。
- 付点のリズム：拡大音型の部分を除いて複付点。3小節目にある付点8分音符の次の32分音符3つのリズムは、リヒテル、シフ、オールドウェル、フェルツマンと同様に3連符。上の注釈でも述べたがこの演奏の複付点は特異と言わざるを得ない。他の声部で32分音符の刻みが無い場合の複付点は極端にテンポが伸びる訳である。それは突然に出現し、どこに収束するかも分からない。刹那的な時間の空白を感じ、フレージングも全く感じとることができない。
- 拡大音型（下降）の部分：テンポは遅いがここは普通の弾き方。
- 終結部（23小節目～最後）：24小節目の2拍目からの32分音符の音型の同時進行では極端に音色を弱音に変化し、大きなダイナミクスを付け重々しく終わっている。25小節目からの左手はオクターブ追加している。

… 3曲終わって …

バッハ・平均率の演奏解釈の多様性～シリーズ・その1～と題して今回、平均率I巻より第2番ハ短調、第3番嬰ハ長調、第5番ニ長調の3曲を取り上げることで終わったが、ここでまず選曲の理由を述べたい。周知の通りバッハの平均率はI巻・II巻併せて48曲あり、これらの曲をすべて隈なく網羅することは理想ではあるが大変なことである。だからと言って48曲中、5、6曲で済ましてバッハの平均率の研究の概観を述べることは甚だ忸怩たるものがある。因ってシリーズとして気長に考え、出来る限り多くの曲を取り上げることを目標とした。そして今回の3曲選曲の直接の理由は、平均率I巻の1番から5番の中で多くの学習者がレッスンにおいて初期から中期の段階で学ぶものと考え選曲した。勿論異論もあるだろうし、今回抜けた1番ハ長調、4番嬰ハ短調等の名曲も次回以降のシリーズで取り上げる可能性もある。

さて演奏解釈の多様性ということで各曲の実際の演奏（CD）よりテンポ、音色、アーティキュレーション等を書き記したが、これについて少し注釈をしたい。

まず演奏家のテンポであるが、これをメトロノームにより数字で記したが、実際に耳で聴いて受ける音楽的な感覚とメトロノームの数字が比例しないことが多い。

例えば第2番のプレリュードのように4分の4拍子で1小節に16分音符連続で16個あるような曲で、♩=80と♩=94の演奏を聴き比べた時、必ずしも♩=94の演奏の方がスピード感があるとは言えないのである。その原因の一つには拍の観念がある。この場合4拍子で1小節に四

つはつきりとアクセントを付けた弾き方と、2拍ずつで1小節に二つアクセントを付けた弾き方では、前者がメトロノーム ♩=80で後者がメトロノーム ♩=94でもスピード感、躍動感は前者の方が多く感じられる。

これは拍だけではなく、もっと細かいリズム、上記の例では16分音符の弾き方によっても変わってくる。16分音符をレガートに弾く場合、ノン・レガートの場合、スタッカートの場合によっても同じ様に変ってくる。

面白いことにAという演奏とBという演奏をメトロノームで測ることなしに聴いた（それが正しい聴き方だが）あとで、メトロノームと合わせて聴き速度を測ると、初めに聴いた印象と矛盾する結果になることが間々あるのである。

この速さに関してのことは、ピアノを勉強している若い学習者（速度美的追求者）に是非とも理解して貰いたいものである。

それから音色についてであるが、レガート、ノン・レガート、スタッカート等と書き記したが、その区別が明瞭な場合もあるが、曖昧でどっちとも言える演奏もあり、感覚的に捉えざるを得ないケースも多い。音色と言ってもすでにそこにはテンポ、左右の音のバランス、アゴング又は音型におけるニュアンス、ペダリング等多くの要素も含まれており聴く者がどの要素を主眼点とするかによって多少印象も変わってくるであろう。

又CDを聴くにあたって、その音響装置によって、又その音量レベル（録音状態もそれぞれ違う）によっても、うっかりすると印象が変わってしまうかも知れない。勿論、そうならないように注意して聴いたつもりである。

今回、3曲だけに終わったが様々な楽譜を見、CDの演奏を聴き、今更ながらにその多様性に驚かされている。他の作曲家の例を挙げて見れば、例えばベートーヴェンのピアノ・ソナタはどうであろうか。同時代でスカルラッチェのソナタはどうであろうか。モーツァルトは……。どの作曲家のもバッハの平均率ほど多様性のある解釈に接することは少ないのではないか。その多様性とは、解釈の正否を問うよりも可能性を筆者は探りたい。可能性は、ある点では自由だが、それに対応した部分で必然性を要求され構築して行かなくては良い演奏とはなり得ない。

例を出して言えば、平均率 I 巻第5番プレリュードをシフは ♩=126で、この曲としてはゆっくりめに弾いている。グールドは ♩=160で、シフと比べればびっくりするほど速いテンポである。しかし両方とも素晴らしい演奏と筆者は感じる。前者は穏やかなテンポで、それに対応して必然性を追究し、一つの音楽を完全に構築している。後者も目まぐるしく速いテンポで躍動感のある緊密な音楽の世界を作り上げている。

同じく平均率 I 巻第5番のフーガであるが、付点のリズムの問題はどうであろうか。今回聴

いた CD の演奏では (主題に限定して),

複付点 = 7 (ピアノ 5, チェンバロ 2)

普通の付点 = 5 (ピアノ 4, チェンバロ 1)

混合 (交互に) = 1 (ピアノ 1, →グールド)

という結果であったが, それぞれに必然性のある名演奏と言えるものがあつた。故に, この付点は複付点に演奏しなければならない, 或いは通常の付点であらねばならないというような結論は導き出されなかつた。当然として多数決の論理は成り立たないのだが。

その他, アーティキュレーション, トリラー, ダイナミクスについても同様である。

詰まる所, 多様性を授けられた自由を, 如何に必然性と関連性を保ちつつ, さらに新鮮な感受性と融和し, 一つの音楽の世界を構築していくということが最も肝心な事と考える。

最後に, 各々の CD の演奏に対して述べた論評であるが, 多少独断的になってしまったものもあるかも知れない。それは筆者が考える重要な観点から方向性を限定して聴いた為に, それが個々の演奏家が目指した方向と一致している場合と一致していない場合があり, その演奏を過大, 又は過少に評価してしまったものがあると思うからである。

余談になるが, 今回二人での執筆になったが, それが少しでも独断的な度合いを減らす方向に作用していれば有り難い。重要な観点も多様な見方がある方が好ましく, 聴く耳も多いほうが良い。結果として同じような観点になることも, 又違った見方が生まれてくる可能性もあり, そこに筆者は大変興味を覚え, 共同研究としての価値を感じる。

(小林: 本学専任講師=ピアノ担当 山口: 本学専任講師=ピアノ担当)

## 〈楽譜の分類〉

### 自筆譜

ドイツ音楽出版社ライプツィヒ版(1962)

### 原典版

クロル版 (1862)    ビショップ版 (1881)  
トーヴィ版 (1924)    ケラー版 (1948)    クロイツ版 (1961)  
ヘンレー版    ベーレンライター原典版  
シュターデ版    ハンセン版  
ジョーンズ版    ウイーン原典版    ラントシュ版

### 校訂版

チェルニー版 (1837)    ブゾーニ版    バルトーク版  
カセルラ版    レントゲン版    井口基成版  
ムジェリーニ版    ポリーフカ版    ボーケルマン版  
神澤哲郎版    パーマー版 (原典部分と校訂部分分かる)

### 〈速度表示一覧〉

曲 目	No. 1 C - dur		No. 2 c - moll		No. 3 Cis - dur		No. 4 cis - moll	
	Pr.	Fuga	Pr.	Fuga	Pr.	Fuga	Pr.	Fuga
基準の音符 校訂・出版								
チェルニー Peters	112	* 58	144	80	92	104	92	* 66
ビショッフ Steingräber	112	63	108	80	84	100	92	* 50
ケラー Peters	72	54-58	84	63	84-92	84-92	* 120	58-63
カセルラ Curci	76	60	144	80	84	Des: 104	84	60
レントゲン Universal	100	60	112	88	80	92	92	72
ムジェリーニ Breitkopf	108	66	120	80	92	96	92	* 50
バルトーク Editio Musica	88-92	66-69	116	80-88	84	92	108	60
シュターデ Steingräber		63		80		100		* 50
パーマー Alfred	80-92	60-65	100-112	66-72	84-92	84-96	80-92	44-48
神澤哲郎 音楽之友社	76	63	84	69	66	92	104	63
ボーケルマン 公論社		66-69		96		Des: 88-92		76

曲 目	No. 5 D - dur		No. 6 d - moll		No. 7 Es - dur		No. 8 es - moll	
	Pr.	Fuga	Pr.	Fuga	Pr.	Fuga	Pr.	Fuga
基準の音符 校訂・出版								
チェルニー Peters	132	76	80	66	80	112	* 50	76
ビショッフ Steingräber	132	80	76	72	69	104	50	dis: 72
ケラー Peters	96	63-66	52	72	60	84-92	44	60-66
カセルラ Curci	132	58	76	63	72	84	* 38	69
レントゲン Universal	126	60	60	60	72	100	48	72
ムジェリーニ Breitkopf	126	69	84	72	76	96	42	72
バルトーク Editio Musica	138	60	70	69	88	96	* 36	72
シュターデ Steingräber		80		72		104		dis: 72
パーマー Alfred	112-126	52-60	70-80	60-66	63-72	80-92	40-44	dis: 60-72
神澤哲郎 音楽之友社	138	60	63	66	69	80	40	66
ボーケルマン 公論社		66		72-76		88-92		

\* 表示の音符の単位が違うので統一するために換算した。

曲 目	No. 9 E - dur		No. 10 e - moll		No. 11 F - dur		No. 12 f - moll	
	Pr.	Fuga	Pr.	Fuga	Pr.	Fuga	Pr.	Fuga
基準の音符 校訂・出版								
チェルニー Peters	84	108	84	126	88	66	* 52	63
ビショッフ Steingräber	92	116	69	132	80	60	56	66
ケラー Peters	63-69	96-104	58-63	116-126	76-84	50-54	48-56	48-56
カセルラ Curci	72	100	58	120	72	44	58	56
レントゲン Universal	72	100	69	112	80	63	54	72
ムジェリーニ Breitkopf	88	108	69	126	76	60	52	66
バルトック Editio Musica	70-76	100	54-60	116	80	66	63	60
シュターデ Steingräber		116		132		60		66
パーマー Alfred	60-66	96-104	52-60	92-114	72-84	54-60	42-50	48-56
神澤哲郎 音楽之友社	66	84	56	84	72	* 51	56	69
ボーケルマン 公論社				104-108				

曲 目	No. 13 Fis - dur		No. 14 fis - moll		No. 15 G - dur		No. 16 g - moll	
	Pr.	Fuga	Pr.	Fuga	Pr.	Fuga	Pr.	Fuga
基準の音符 校訂・出版								
チェルニー Peters	96	88	100	88	100	80	69	80
ビショッフ Steingräber	104	76	108	100	96	76	56	60
ケラー Peters	84-92	63-69	84	96	80	66-72	44	56
カセルラ Curci	76	66	108	63	* 92	* 58	* 38	66
レントゲン Universal	92	80	108	100	92	76	52	60
ムジェリーニ Breitkopf	104	76	104	100	96	69	* 46	60
バルトック Editio Musica	84	76	108	94-100	80	60	56	80
シュターデ Steingräber		76		100		76		60
パーマー Alfred	72-88	◆ 28-30 ?	80-88	66-80	70-80	58-66	* 36-44	52-60
神澤哲郎 音楽之友社	76	69	96	88	88	60	52	80
ボーケルマン 公論社								69-72

\*表示の音符の単位が違うので統一するために換算した。  
◆表示の音符のミスプリントと思われる。

曲 目	No. 17 As - dur		No. 18 gis - moll		No. 19 A - dur		No. 20 a - moll	
	Pr.	Fuga	Pr.	Fuga	Pr.	Fuga	Pr.	Fuga
基準の音符 校訂・出版								
チェルニー Peters	96	60	126	* 54	80	69	84	72
ビショッフ Steingräber	108	60	132	56	84	66	80	66
ケラー Peters	72	44-48	96	63	66	66	66	66
カセルラ Curci	104	56	112	52	63	60	88	54
レントゲン Universal	100	66	120	60	80	66	80	72
ムジェリーニ Breitkopf	108	66	132	60	80	66	80	66
バルトーク Editio Musica			* 138	66-69	92	54-60	84	72
シュターデ Steingräber		60		56		66		66
パーマー Alfred	72-84	50-66	96-112	58-63	63-72	66-76	63-72	63-72
神澤哲郎 音楽之友社	88	63	* 138	58	76	60	63	80
ボーケルマン 公論社								

曲 目	No. 21 B - dur		No. 22 b - moll		No. 23 H - dur		No. 24 h - moll	
	Pr.	Fuga	Pr.	Fuga	Pr.	Fuga	Pr.	Fuga
基準の音符 校訂・出版								
チェルニー Peters	84	116	92	60	76	* 63	80	46
ビショッフ Steingräber	76	120	92	* 52	80	60	69	52
ケラー Peters	69	96	* 100-108	50-54	72-80	60	69	48-54
カセルラ Curci	76	80	76	44	72	54	69	* 33
レントゲン Universal	76	108	88	52	84	66	76	54
ムジェリーニ Breitkopf	76	104	84	* 52	80	60	76	52
バルトーク Editio Musica	76	84	92	60			* 116	46
シュターデ Steingräber		120		* 52		60		52
パーマー Alfred	72-80	72-80	60-66	50-58	69-76	48-56	69-76	42-54
神澤哲郎 音楽之友社	76	84	* 88	52	69	63	80	66
ボーケルマン 公論社		104-108		80-84				

\*表示の音符の単位が違うので統一するために換算した。

〈楽語一覧〉

校訂者 出版社	No. 1 C - dur		No. 2 c - moll		No. 3 Cis - dur	
	Praeludium	Fuga	◆ Praeludium	Fuga	Praeludium	Fuga
チェルニー Peters (1837)	Allegro	Moderato e maestoso	Allegro vivace	Allegretto Moderato	Vivace	Allegro
ビショッフ Steingräber (1881)	Moderato	Andante	Allegro	Allegretto	Vivace	Allegro
ブゾーニ Breitkopf & H. (1894)	Moderato	Moderato, quasi Andante	Allegro con fuoco	Allegretto, vivacamente	Vivace e leggiero	Allegro moderato
トーヴィ A.B.R.S.M. (1924)	Moderato	Andante con moto	Moderato	Allegretto	Vivace	Allegro giojoso
井口基成 春秋社	Moderato	Andante	Allegro	Allegretto	Vivace	Allegro moderato
ポリーフカ Editio Supraphon (1945)	Allegro	Moderato e maestoso	Allegro	Allegretto moderato	Vivace	Allegro moderato
カセルラ Curci (1946)	Moderato	Andante soleenne	Allegro impetuoso	Allegretto	Allegro veloce e leggiero	Allegro moderato e grazioso (Des-dur)
レントゲン Universal	Moderato	Andante	Allegro	Allegretto	Vivace	Allegro moderato
ムジェリーニ Breitkopf	Andante con moto	Andante	Allegro	Allegretto	Veloce	Allegro moderato
バルトク Editio Musica (1961)	Andante	Sostenuto	Allegro impetuoso	Allegretto	Non troppo vivace	Allegretto grazioso
シュターデ Steingräber (1970)		Andante		Allegretto		Allegro
ジョーンズ A.B.R.S.M. (1989) (by Tovey)	Moderato	Andante con moto	Moderato	Allegretto	Vivace	—
パーマー Alfred	Andante con moto	Andante moderato	Allegro moderato	Allegretto moderato	Vivace	Allegro grazioso

◆ No. 2のプレリュードは楽曲の途中に Presto, Adagio, Allegro の表示があるが, Bach 自筆のもの。

校訂者 出版社	No. 4 cis - moll		No. 5 D - dur		No. 6 d - moll	
	Praeludium	Fuga	Praeludium	Fuga	Praeludium	Fuga
チェルニー Peters (1837)	Andante con moto	Moderato e maestoso	Allegro vivace	Allegro moderato	Allegro moderato	Andante
ビショッフ Steingräber (1881)	Andante	Molto moderato	Vivace	Allegro moderato	Allegro ma non troppo	Moderato
ブゾーニ Breitkopf & H. (1894)	Andante serioso, non troppo sostenuto ed espressivo	Gravemente e sostenuto, ma non troppo	Allegro con spirito e molto scorrevole (Quasi alla breve)	Allegro moderato ed eroi- co, piuttosto Andante	Un poco agitato, non Allegro	Andante espressivo
トーヴィ A.B.R.S.M. (1924)	Andante cantabile	Maestoso alla breve	Allegro leggiero	Pomposo, all'Overtura francese	Andante con moto quasi allegretto	Andante quasi, Allegretto
井口基成 春秋社	Andante con moto	Moderato e maestoso	Allegro con spirito	Moderato e maestoso	Allegro ma non troppo	Moderato
ポリーフカ Editio Supraphon (1945)	Andante	Moderato	Allegro	Allegro moderato	Allegro moderato	Andante
カセルラ Curci (1946)	Andante mistico ed espressivo	Grave, sostenuto	Allegro veloce e leggiero	Allegro moderato e pomposo	Allegro moderato	Andante espressivo
レントゲン Universal	Andante espressivo	Moderato	Vivace	Allegro moderato	Moderato	Andante espressivo
ムジェリーニ Breitkopf	Andante espressivo	Moderato	Allegro vivace e brillante	Allegro moderato ed energico	Allegro ma non troppo	Andante espressivo
バルトーク Editio Musica (1961)	Sostenuto	Allegro moderato	Allegro vivace	Maestoso	Quieto	Moderato
シュターデ Steingräber (1970)		Molto moderato		Allegro moderato		Moderato
ジョーンズ A.B.R.S.M. (1989) (by Tovey)	Andante cantabile	Maestoso alla breve	Allegro leggiero	Pomposo, all'Overtura francese	Andante con moto, quasi allegretto	Andante, quasi allegretto
パーマー Alfred	Andante espressivo	Moderato, maestoso	Allegro	Maestoso	Allegro moderato	Moderato

校訂者 出版社	No. 7 Es - dur		No. 8 es - moll		No. 9 E - dur	
	Praeludium	Fuga	Praeludium	Fuga	Praeludium	Fuga
チェルニー Peters (1837)	Lento moderato	Allegro	Lento moderato	Andante con moto	Allegretto	Allegro vivace
ピシヨッフ Steingräber (1881)	Largo	Allegro	Sostenuto	Andante	Allegretto piacevole	Allegro
ブゾーニ Breitkopf & H. (1894)	Allegro deciso	▼(II巻7番) (Tempo giusto)	Lento	Andante pensieroso, non troppo accentato	Allegretto, in modo pastorale	Allegro giusto
トーヴィ A.B.R.S.M. (1924)	Largamente quasi improvisando	Allegretto piacevole	Andante espressivo (Tempo da Sarabanda)	Moderato, con moto	Poco allegretto	Allegro
井口基成 春秋社	Andante	Allegro	Lento	Andante	Allegretto	Allegro
ポリーフカ Editio Supraphon (1945)	Lento Moderato	Allegro	Lento moderato	Andante	Allegretto	Allegro vivace
カセルラ Curci (1946)	Allegro deciso	Allegretto con grazia	Lento	Andante pensieroso	Allegretto pastorale	Allegro deciso
レントゲン Universal	Andante	Allegro	Lento espressivo	Andante (dis-moll)	Allegretto	Allegro
ムジェリーニ Breitkopf	Allegro molto tranquillo ; preludiando	Allegro moderato ma con brio	Lento ; con profondo sentimento	Andante sostenuto	Allegretto piacevole	Allegro deciso
バルトーク Editio Musica (1961)	Allegro energico	Allegro grazioso	Lento	Andante	Allegretto pastorale	Allegro vivace
シュターデ Steingräber (1970)		Allegro		Andante		Allegro
ジョーンズ A.B.R.S.M. (1989) (by Tovey)	Largamente quasi improvisando	Allegretto piacevole	Andante espressivo (Tempo da Sarabanda)	Moderato, con moto	Poco allegretto	Allegro
パーマー Alfred	Andante moderato	Allegro con spirito	Lento	Andante molto moderato	Andante grazioso	Allegro non troppo

▼ブゾーニは何らかの理由でI巻とII巻のフーガを入れ替えている。

校訂者 出版社	No. 10 e - moll		No. 11 F - dur		No. 12 f - moll	
	◆ Praeludium	Fuga	Praeludium	Fuga	Praeludium	Fuga
チェルニー Peters (1837)	Allegro molto moderato	Allegro	Vivace	Allegretto	Andante espressivo	Andante serioso
ビショッフ Steingräber (1881)	Andante	Allegro capriccioso	Allegro	Allegretto	Andante	Molto moderato
ブゾーニ Breitkopf & H. (1894)	Sostenuto, quasi Andante	Allegro deciso	Allegro giocoso	Allegretto, ben misurato, con semplicità	Andante	Molto sostenuto, ma fermo in tempo e carattere
トーヴィ A.B.R.S.M. (1924)	Andante cantabile	Allegro leggiero	Allegretto tranquillo	Andante con moto, quasi allegretto	Andante	Maestoso, con ritmo energioco, ma cantabile
井口基成 春秋社	Moderato (cantando e espressivo)	Allegro	Allegro	Allegretto	Andante	Andante serioso
ポリーフカ Editio Supraphon (1945)	Allegro molto moderato	Allegro	Vivace	Allegretto	Andante espressivo	Andante
カセルラ Curci (1946)	Andante grave e sostenuto	Allegro risoluto e vigoroso	Allegro spiritoso	Allegretto moderato e semplice	Andante	Andante mesto e sostenuto
レントゲン Universal	Andante moderato	Allegro	Allegro	Allegretto	Andante	Molto moderato
ムジェリーニ Breitkopf	Andante sostenuto e cantabile	Molto Allegro e con brio	Allegretto vivace e brioso	Allegretto	Andante sostenuto ed elegiaco	Molto moderato
バルトーク Editio Musica (1961)	Molto sostenuto	Allegro con fuoco	Allegro	Allegro non troppo	Sostenuto	Lento
シュターデ Steingräber (1970)		Allegro capriccioso		Allegretto		Molto moderato
ジョーンズ A.B.R.S.M. (1989) (by Tovey)	Andante cantabile	Allegro leggiero	Allegretto tranquillo	Andante con moto, quasi allegretto	—	Andante
パーマー Alfred	Andante sostenuto	Allegro	Allegro	Allegro non troppo	Andante sostenuto	Molto moderato, serioso

◆ No. 10のプレリュードは楽曲の途中に presto の表示があるが、Bach 自筆のもの。

校訂者 出版社	No. 13 Fis - dur		No. 14 fis - moll		No. 15 G - dur	
	Praeludium	Fuga	Praeludium	Fuga	Praeludium	Fuga
チェルニー Peters (1837)	Allegretto	Allegretto piacevole	Allegro moderato	Andante maestoso	Allegro	Allegretto vivace
ビショッフ Steingräber (1881)	Allegretto	Andantino	Allegro	Andante serioso	Leggierissimo	Allegro
ブゾーニ Breitkopf & H. (1894)	Andantino tranquillo ma scorrevole	Allegretto piacevole e scherzoso	Allegro con spirito	Sostenuto e severo, ma piuttosto Andante	Allegro	▼(II巻15番) (Allegretto scherzoso)
トーヴィ A.B.R.S.M. (1924)	Andante armonioso, con moto grazioso	Allegretto	Allegro moderato	Andante cantabile	Allegretto leggiero	Allegro ma non troppo presto
井口基成 春秋社	Allegretto	Allegretto piacevole	Allegro	Andante serioso	Allegro	Allegretto vivace
ポリーフカ Editio Supraphon (1945)	Allegretto	Allegretto	Allegro moderato	Andante maestoso	Allegro	Allegretto
カセルラ Curci (1946)	Andantino tranquillo, quasi allegretto	Allegretto scherzoso	Allegro con fuoco	Andante severo e mistico	Allegro veloce e brillante	Allegretto scherzoso
レントゲン Universal	Allegretto tranquillo	Allegretto	Allegro	Moderato	Allegro vivace	Allegro
ムジェリーニ Breitkopf	Allegretto	Andantino grazioso	Allegro giusto	Andante ; con severa espressione	Molto vivace e brillante	Allegro moderato, ma con molto brio
バルトーク Editio Musica (1961)	Andante	Poco allegretto	Allegro	Sostenuto	Allegro vigoroso	Allegretto grazioso
シュターデ Steingräber (1970)		Andantino		Andante serioso		Allegro
ジョーンズ A.B.R.S.M. (1989) (by Tovey)	Andante armonioso, con moto grazioso	Allegretto	Allegro moderato	Andante cantabile	Allegretto leggiero	Allegro ma non troppo presto
パーマー Alfred	Allegretto	Andante con moto	Allegro moderato	Andante serioso	Allegro	Allegretto grazioso

▼ブゾーニは何らかの理由でI巻とII巻のフーガを入れ替えている。

校訂者 出版社	No. 16 g - moll		No. 17 As - dur		No. 18 gis - moll	
	Praeludium	Fuga	Praeludium	Fuga	Praeludium	Fuga
チェルニー Peters (1837)	Lento moderato	Andante con moto	Moderato	Andante	Allegretto moderato ed espressivo	Andante espressivo
ビショッフ Steingraber (1881)	Lento	Molto tranquillo	Allegretto	Moderato	Allegretto	Andante
ブゾーニ Breitkopf & H. (1894)	Larghetto, senza troppa espressione	Andante con moto	Allegretto, un poco maestoso	Moderato	Andantino, lusingando	Andante (non troppo) con un certo senti- mento severo
トーヴィ A.B.R.S.M. (1924)	Andante cantabile	Maestoso, quasi Andante con moto	Allegretto	Moderato, con moto tranquillo	Andante, un poco mosso	Andante cantabile
井口基成 春秋社	Lento	Andante con moto	Allegretto	Moderato	Andantino	Andante espressivo
ポリーフカ Editio Supraphon (1945)	Moderato	Andante con moto	Moderato	Andante	Allegretto moderato	Andante espressivo
カセルラ Curci (1946)	Larghetto	Andante con moto	Allegretto moderato	Moderato	Andantino espressivo	Andante ma non troppo
レントゲン Universal	Lento	Andante	Allegretto	Moderato	Andante espressivo	Andante
ムジェリーニ Breitkopf	Lentamente	Andante con moto	Allegro scherzoso	Moderato	Allegretto un poco espressivo ma semplice	Andante
バルトーク Editio Musica (1961)	Andante moderato	Allegro moderato	—	—	Moderato	Lento
シュターデ Steingraber (1970)		Molto tranquillo		Moderato		Andante
ジョーンズ A.B.R.S.M. (1989) (by Tovey)	Andante cantabile	Maestoso, quasi Andante con moto	Allegretto	Moderato, con moto tranquillo	Andante, un poco mosso	Andante cantabile
パーマー Alfred	Lentamente	Andante	Allegretto	Andante moderato	Andante cantabile	Andante

校訂者 出版社	No. 19 A - dur		No. 20 a - moll		No. 21 B - dur	
	Praeludium	Fuga	Praeludium	Fuga	Praeludium	Fuga
チェルニー Peters (1837)	Moderato	Allegro moderato	Vivace	Andante maestoso ma con moto	Vivace	Allegro vivace
ビショッフ Steingräber (1881)	Allegretto grazioso	Allegretto	Allegro	Moderato assai	Vivace	Allegro scherzando
ブゾーニ Breitkopf & H. (1894)	Allegretto sereno e spiritoso	Tranquillo e piacevole	Allegro (impetuoso)	Moderato deciso, con fermezza e gravità	Allegro volante	Allegretto semplice
トーヴィ A.B.R.S.M. (1924)	Allegretto moderato	Allegretto vivace, ma non troppo presto	Allegretto moderato	Moderato, con moto	Alla Toccata, quasi improvvisando	Allegro
井口基成 春秋社	Allegretto	Allegro moderato	Allegro	Moderato	Vivace	Allegretto vivace
ポリーフカ Editio Supraphon (1945)	Moderato	Allegro moderato	Vivace	Andante maestoso ma con moto	Vivace	Allegro
カセルラ Curci (1946)	Allegretto dolce e sereno	Allegro tranquillo	Allegro vivo e impetuoso	Moderato, grave	Allegro brillante	Allegretto scherzoso
レントゲン Universal	Allegro comodo	Allegretto	Allegro marcato	Allegro molto moderato	Vivace	Allegro
ムジェリーニ Breitkopf	Allegretto grazioso	Allegro molto tranquillo	Allegro vivace e deciso	Molto moderato	Allegro vivace	Allegretto scherzoso
バルトーク Editio Musica (1961)	Allegro vigoroso	Commodo	Allegro vivace	Moderato	Veloce	Allegretto piacevole
シュターデ Steingräber (1970)		Allegretto		Moderato assai		Allegro scherzando
ジョーンズ A.B.R.S.M. (1989) (by Tovey)	Allegretto moderato	Allegretto vivace, ma non troppo presto	Allegretto moderato	Moderato, con moto	Alla toccata, quasi improvvisando	Allegro
パーマー Alfred	Moderato	Allegretto	Allegro vivace	Moderato	Allegro brillante	Allegretto

校訂者 出版社	No. 22 b - moll		No. 23 H - dur		No. 24 h - moll	
	Praeludium	Fuga	Praeludium	Fuga	◆ Praeludium	◆ Fuga
チェルニー Peters (1837)	Andante sostenuto	Lento	Allegretto moderato	Andante	Andante	Largo
ビショッフ Steingräber (1881)	Lento	Lento	Allegretto	Andante	Andante	Largo
ブゾーニ Breitkopf & H. (1894)	Andante mistico	Andante pensoso e sostenuto	Andantino idillico	Poco andante	Andante (religioso)	(Largo) Andante grave e solenne
トーヴィ A.B.R.S.M. (1924)	Andante, largamente ma non adagio	Andante con moto alla breve	Allegretto	Moderato	Andante	Largo
井口基成 春秋社	Andante sostenuto	Lento	Allegretto	Andante	Andante	Largo
ポリーフカ Editio Supraphon (1945)	Andante sostenuto	Lento	Allegretto moderato	Andante	Andante	Largo
カセルラ Curci (1946)	Andante grave, mesto	Andante mistico	Andantino dolce e scorrevole	Andante sereno	Andante	Largo
レントゲン Universal	Lento	Lento	Allegretto	Andante	Andante	Largo
ムジェリーニ Breitkopf	Adagio lamentoso	Andante sostenuto	Allegretto tranquillo	Andante	Andante	Largo
バルトーク Editio Musica (1961)	Lento	Andante sostenuto	—	—	Andante	Largo
シュターデ Steingräber (1970)		Lento		Andante		Largo
ジョーンズ A.B.R.S.M. (1989) (by Tovey)	Andante, largamente ma non adagio	Andante con moto alla breve	Allegretto	Moderato	Andante	Largo
パーマー Alfred	Adagio lamentoso	Lento	Allegretto tranquillo	Andante	Andante	Largo

◆ No. 24の Andante, Largo は Bach 自筆のもの。

## 参 考 资 料

(平均率第 I 卷)

### — C D —

- Walter Giesecking (POCG-2921/3)
- Edwin Fischer (TOCE-6151/54)
- Sviatoslav Richter (VDC-5001/4)
- Jörg Demus (PLCC-567/8)
- Glenn Gould (OODC 120/3)
- Andras Schiff (LONDON414 388-2)
- Friedrich Gulda (PHCP3510/11)
- Vladimir Feltsman (01612-67105-2)
- Edward Aldwell (979272-2)
- Joāo Carlos Martins (LAB 7001/2)
- Gustav Leonhardt (BVCD-1828/29)
- Ton Koopman (R30E-1023/24)
- Christiane Jaccottet (45S2-11/12)

### — 樂 譜 —

- VEB Deutscher Verlag für Musik
- Edition Peters Carl Czerny
- Edition Peters Franz Kroll
- Steingräber Verlag Hans Bischoff
- Breitkopf & Härtel Ferruccio Busoni 1/3
- Editio Supraphon Vladimír Polívka
- Universal Edition Julius Röntgen
- Edizioni Curci Alfredo Casella
- Breitkopf & Härtel Bruno Mugellini
- Editio Musica Béla Bartók 1/2
- 春秋社 井口基成
- 音楽之友社 神澤哲郎
- Alfred Pub. Co. Willard A. Palmer
- Steingräber Verlag F. Stade
- Edition Peters Alfred Kreutz
- Bärenreiter Alfred Dürr
- Wilhelm Hansen Gotthold Frotscher
- Associated Board of the Royal Schools of Music  
Donald Francis Tovey
- Wiener Urtext Edition Walther Dehnhard
- Associated Board of the Royal Schools of Music  
Richard Jones
- 公論社 Bern Boekelman